

令和6年度（2024年度）

事業報告書

自 令和6年4月1日

至 令和7年3月31日

I. 法人の概要	2
II. 実施事業と成果	14
1. 森ノ宮医療大学	14
2. 森ノ宮医療学園専門学校	65
3. 関連事業部門	74
III. 財務の概要	79

学校法人森ノ宮医療学園
大阪市東成区中本4丁目1番8号

I. 法人の概要

1. 建学の精神

臨床に優れ、かつ豊かな人間性に裏打ちされた医療人を育成する

2. 学校法人の沿革

年	月	事 項
1973（昭和48）年	3月	厚生省より鍼灸師養成施設の認可を受ける
	4月	大阪鍼灸専門学校開校（大阪市東成区）
1977（昭和52）年	4月	学校法人森ノ宮学園となり、あわせて専修学校医療専門課程認可
1982（昭和57）年	4月	学校法人森ノ宮学園附属診療所、附属鍼灸施術所開設
1985（昭和60）年	4月	卒後教育雑誌「鍼灸 OSAKA」創刊
1988（昭和63）年	5月	鍼灸師養成に関わる法律により修業年限3年となる
	11月	中国・大連市中医医院と学術研究提携を結ぶ
1991（平成3）年	7月	米国、Santa Barbara College of Oriental Medicine と教育提携を結ぶ
1992（平成4）年	7月	中国・南京中医薬大学と学術研究提携を結ぶ
1995（平成7）年	3月	文部大臣より専門士（医療専門課程）の称号を付与
1996（平成8）年	6月	中国・江蘇省江陰市中医医院と学術・教育協定を締結
2000（平成12）年	4月	法人名を学校法人森ノ宮医療学園に改称
		大阪鍼灸専門学校を森ノ宮医療学園専門学校に改称
		森ノ宮医療学園専門学校 柔道整復学科開設
2001（平成13）年	1月	森ノ宮医療学園専門学校本校舎増改築工事完成、同校3階に「はりきゅうミュージアム」開設
2002（平成14）年	1月	「はりきゅうミュージアム」にて代田文誌特別展開催
	4月	森ノ宮医療学園専門学校緑橋校舎増設
2003（平成15）年	3月	森ノ宮医療学園専門学校 柔道整復学科第1期生卒業
		創立30周年記念式典 校歌「みどりの風」制定
	4月	森ノ宮医療学園専門学校 全日制アドバンスコース開講
	7月	森ノ宮医療学園専門学校 アネックス校舎（第1期）完成
2004（平成16）年	3月	中国江蘇省江陰市中医医院と学術・教育協定締結
2005（平成17）年	2月	医療法人淳良会関目病院と教育提携を結ぶ
2006（平成18）年	11月	森ノ宮医療大学設置認可

2007（平成19）年	2月	森ノ宮医療大学 東棟（East Port）校舎完成
	4月	森ノ宮医療大学開学（大阪市住之江区）
		森ノ宮医療大学 保健医療学部理学療法学科、鍼灸学科開設 森ノ宮医療大学附属鍼灸施術所 コスモス治療院開院
2008（平成20）年	2月	森ノ宮医療大学が第1回おおさか優良緑化賞・大阪府知事賞受賞
	11月	森ノ宮医療大学コスモキャンパス第2校地取得 学校法人森ノ宮医療学園附属診療所、附属鍼灸施術所を緑橋校舎に移転し、森ノ宮医療学園附属みどりの風クリニック、みどりの風鍼灸院に改称
2010（平成22）年	1月	学校法人森ノ宮医療学園アネックス校舎完成
	3月	森ノ宮医療大学が地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪府立急性期・総合医療センター（現：大阪急性期・総合医療センター）と相互連携協定を締結
	4月	森ノ宮医療大学 食堂棟（Medi CAFÉ）完成
	6月	森ノ宮医療大学 西棟（West Port）完成
2011（平成23）年	4月	森ノ宮医療大学 保健医療学部看護学科開設 森ノ宮医療大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻（修士課程）開設
	7月	森ノ宮医療大学が医療法人協和会千里中央病院と相互連携協定を締結
	12月	森ノ宮医療大学が医療法人錦秀会と相互連携協定を締結
	2月	森ノ宮医療大学売店（Green Shop）開設（株式会社三省堂書店）
2012（平成24）年	2月	森ノ宮医療大学 鍼灸学科に鍼灸コース・スポーツ特修コース・教職課程開設
	3月	森ノ宮医療大学 公益財団法人日本高等教育評価機構による機関別認証評価受審の結果、「適合」との判定 森ノ宮医療学園専門学校 文部科学大臣より「職業実践専門課程」の認定
	5月	森ノ宮医療大学が公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院と相互連携協定を締結
2014（平成26）年	1月	森ノ宮医療大学が大阪市住之江区と包括連携協定締結
	1月	森ノ宮医療大学が医療法人協和会と相互連携協定を締結
	2月	森ノ宮医療大学が中国・浙江省人民医院と学術交流に関する協定を締結
	6月	森ノ宮医療大学が大阪府高槻市教育委員会と連携協定締結
	11月	森ノ宮医療大学が特定医療法人（現：社会医療法人）有隣会東大阪病院と森ノ宮医療大学保健医療学部の相互連携協定を締結
	11月	大阪府吹田市教育委員会と連携協定締結

2015（平成27）年	2月	森ノ宮医療大学が相愛大学と包括連携協定を締結
	3月	森ノ宮医療大学が社会医療法人景岳会南大阪病院と相互連携協定を締結
	4月	森ノ宮医療大学が大阪市教育委員会と学生の実習に関する協定を締結
	7月	森ノ宮医療大学が守口市教育委員会と連携協定を締結
2016（平成28）年	1月	森ノ宮医療大学が社会福祉法人帝塚山福祉会と相互連携協定を締結
	3月	森ノ宮医療学園専門学校が大阪社会体育専門学校と包括連携協定締結
	4月	森ノ宮医療大学 助産学専攻開設 森ノ宮医療大学保健医療学部臨床検査学科、作業療法学科開設
		森ノ宮医療大学 南棟（Canal Port）校舎完成
		森ノ宮医療大学 南棟（Canal Port）に体育館（MTC：メディカル・トレーニング・センター）完成、図書館（Medical Ei）移設
	6月	森ノ宮医療大学が地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪府立成人病センター（現：大阪国際がんセンター）と相互連携協定を締結
	8月	学校法人常翔学園とSDにおける大学間連携に関する協定を締結
	9月	森ノ宮医療学園専門学校がフロリダ・カレッジ・オブ・インテグレイティブメディスン（FCIM）と姉妹校提携
	11月	森ノ宮医療大学創立10周年記念式典を挙行
	12月	森ノ宮医療大学西側校地取得
2017（平成29）年	2月	森ノ宮医療大学が社会医療法人純幸会関西メディカル病院と相互連携協定を締結
	3月	森ノ宮医療大学がマギクワン大学（カナダ）と相互連携協定を締結
	4月	森ノ宮医療大学 保健医療学部看護学科に養護教諭養成課程開設 森ノ宮医療大学 禁煙宣言
	8月	学校法人武井育英会と包括連携協定を締結
	10月	森ノ宮医療大学が株式会社かなえるリンク（現：株式会社リニエール）と森ノ宮医療大学保健医療学部の相互連携協定を締結
	11月	学校法人森ノ宮医療学園附属治療院 京都施術所（ERP 下鴨南治療院）開院
	12月	森ノ宮医療大学 複合型スポーツ施設（グリーンスクエア）完成
2018（平成30）年	1月	森ノ宮医療大学が放送大学と単位互換協定を締結 森ノ宮医療大学が公益財団法人日本生命済生会付属日生病院（現：日本生命病院）と相互連携協定を締結
	3月	森ノ宮医療大学がカーティン大学（オーストラリア）と連携協定を締結
	4月	森ノ宮医療大学 保健医療学部臨床工学科開設

2018（平成30）年	4月	森ノ宮医療大学 大学院保健医療学研究科医療科学専攻（博士後期課程）開設 ミズノ株式会社と相互連携協定を締結
	7月	森ノ宮医療学園専門学校が大阪市東成区と包括連携協定締結 森ノ宮医療大学が三育大学（韓国）と連携協定を締結
	11月	森ノ宮医療大学が近畿大学医学部附属病院（現：近畿大学病院）と相互連携協定を締結
	12月	森ノ宮医療大学が公益財団法人大阪国際がん治療財団大阪重粒子線センターと相互連携協定を締結
		森ノ宮医療学園ランゲージスクールが大阪府から各種学校として認可される。
2019（平成31）年	2月	
	4月	森ノ宮医療学園ランゲージスクール開校
2020（令和2）年	1月	森ノ宮医療大学 桜棟（Sakura Port）校舎完成
	4月	森ノ宮医療大学保健医療学部診療放射線学科開設 森ノ宮医療大学大学院保健医療学研究科 看護学専攻（修士課程）開設 森ノ宮医療大学保健医療学部臨床検査学科 細胞検査士課程開設
	9月	森ノ宮医療大学が社会医療法人愛仁会と相互連携協定を締結
	10月	森ノ宮医療大学が独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）大阪みなと中央病院と相互連携協定を締結
	11月	学校法人森ノ宮医療学園がイカリソース株式会社と連携協定を締結
	12月	森ノ宮医療大学が独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）大阪病院と相互連携協定を締結
		森ノ宮医療大学がチュニス・エルマナール大学、チュニス・エルマナール大学附属チュニス医療技術高等学院（チュニジア）と連携協定を締結
	4月	学校名を森ノ宮医療学園ウェルランゲージスクールに改称 学校法人森ノ宮医療学園ウェルランゲージスクール介護福祉学科開設
	6月	学校法人森ノ宮医療学園が西日本旅客鉄道株式会社近畿統括本部大阪支社と連携協定を締結
	8月	学校法人森ノ宮医療学園がNTTドコモレッドハリケーンズ大阪（現：レッドハリケーンズ大阪）と連携協定を締結
2021（令和3）年	9月	森ノ宮医療大学が放送大学大学院と森ノ宮医療大学大学院の単位互換に関する協定を締結
2022（令和4）年	3月	森ノ宮医療大学 部室棟（Passerelle Port）完成
	4月	森ノ宮医療大学保健医療学部を看護学部、総合リハビリテーション学部、医療技術学部に変更（2022年度入学生より） 森ノ宮医療大学大学院保健医療学研究科 看護学専攻（博士後期課程）開設 森ノ宮医療大学 大学院保健医療学研究科 看護学専攻 修士課程から博士前期課程に課程変更し、NPコースを開設

2022（令和4）年	4月	学校法人森ノ宮医療学園が西尾レントオール株式会社と相互連携協定を締結
	5月	森ノ宮医療大学が医療法人聖和錦秀会阪和いずみ病院と相互連携協定を締結
	9月	学校法人森ノ宮医療学園が大阪市と包括連携協定を締結
2023（令和5）年	11月	森ノ宮医療大学附属大阪ベイクリニック開院
	8月	森ノ宮医療大学が独立行政法人国立病院機構大阪医療センターと相互連携協定を締結
	10月	森ノ宮医療大学が独立行政法人労働者健康安全機構大阪労災病院と相互連携協定を締結
2024（令和6）年	2月	森ノ宮医療大学 葵棟（AoiPort）校舎完成
	4月	森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科 開設 森ノ宮医療大学附属鍼灸施術所 コスモス治療院を鍼灸臨床センターに改称
	11月	学校法人森ノ宮医療学園が公益社団法人2025年日本国際博覧会協会と災害時における帰宅困難者の受入れ等に関する協定を締結
	12月	学校法人森ノ宮医療学園が学校法人OCCと包括的連携協定を締結
2025（令和7）年	4月	森ノ宮医療大学 医療技術学部鍼灸学科にアスレティックトレーナーコースを開設 森ノ宮医療大学 柔棟（Yawara Port）、和棟（Nagomi Port）校舎取得 森ノ宮医療大学 シミュレーションセンター（T-MIC：Teamwork Medical Innovation Center）開設 和棟に森ノ宮医療大学附属鍼灸臨床センター移設

3. 設置する学校・学部・学科等

法人の名称		学校法人 森ノ宮医療学園		事務所の所在地		大阪府大阪市東成区 中本4丁目1番8号	
設置する学校	学校名	学部・学科名等	就業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	備考
	森ノ宮医療大学※令和4年度に学部再編	大学院保健医療学研究科 保健医療学専攻（修士課程）	2	6	0	12	開設年度 平成23年度
		大学院保健医療学研究科看護学専攻 （修士課程／博士前期課程）	2	9	0	18	開設年度 令和2年度
		大学院保健医療学研究科 医療科学専攻（博士後期課程）	3	2	0	6	開設年度 平成30年度
		大学院保健医療学研究科 看護学専攻（博士後期課程）	3	2	0	6	開設年度 令和4年度
		保健医療学部／医療技術学部 鍼灸学科	4	60	0	240	開設年度 平成19年度
		保健医療学部／総合リハビリテーション学部 理学療法学科	4	70	0	280	開設年度 平成19年度
		保健医療学部／看護学部 看護学科	4	90	0	360	開設年度 平成23年度
		保健医療学部／医療技術学部 臨床検査学科	4	70	0	280	開設年度 平成28年度
		保健医療学部／総合リハビリテーション学部 作業療法学科	4	40	0	160	開設年度 平成28年度
		保健医療学部／医療技術学部 臨床工学科	4	60	0	240	開設年度 平成30年度
		保健医療学部／医療技術学部 診療放射線学科	4	80	0	320	開設年度 令和2年度
		総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科	4	40	0	40	開設年度 令和6年度
		助産学専攻科	1	10	0	10	開設年度 平成28年度

	森ノ宮医療学園専門学校	医療専門課程鍼灸学科	3	120	0	360	開設年度 昭和48年度
		医療専門課程柔道整復学科	3	90	0	270	開設年度 平成12年度
	森ノ宮医療学園ウェルランゲージスクール	日本語学科進学1年コース	1	－	－	－	開設年度 平成31年度
		日本語学科進学1年6か月コース	1.5	－	－	－	
		日本語学科進学2年コース	2	－	－	－	
		介護福祉学科	2	－	－	－	開設年度 令和3年度

4. 施設等の状況

学校名（所在地）	校地現有面積	校舎現有面積	備考
森ノ宮医療大学・大学院 (大阪市住之江区南港北1丁目39番1号)	㎡ 32,936.65	㎡【令和5年度】 7,193.15 (東棟) ㎡	葵棟新築（5,425.79 ㎡）
		603.63 (食堂棟)	
		4,891.48 (西棟) (附属クリニック)	
		10,939.69 (南棟)	
		30.64 (スポーツ施設管理棟)	
		5,422.25 (桜棟)	
		234.16 (部室棟)	
		5,425.79 (葵棟)	
森ノ宮医療大学 計	32,936.65	34,740.79	
森ノ宮医療学園専門学校 (大阪市東成区中本4丁目1番8号)	1,560.22	5,253.67 (本校舎)	
森ノ宮医療学園専門学校 (大阪市東成区中本3丁目15番11号)	530.56	936.74 (緑橋校舎)	
森ノ宮医療学園専門学校 (大阪市東成区中本2丁目5番41号)	1,329.40	1,454.19 (アネックス校舎)	
森ノ宮医療学園専門学校 計	3,420.18	7,644.60	
森ノ宮医療学園ウェルランゲージスクール (大阪市住之江区南港北1丁目28番9号)		673.31 (日本語学科棟)	
		1,070.90 (介護福祉学科棟)	
森ノ宮医療学園ウェルランゲージスクール 計		1,744.21	
総合計	36,176.83	44,129.60	

(2024年5月1日現在)

5. 役員の概要

・定員数：理事 8 ～ 14 名 / 監事 2 ～ 4 名 ・現員数：理事 10 名 / 監事 2 名

役 職	氏 名	役員就任年月日	選任区分	備考
理事長	清水 尚道	平成22年11月	7-1-1	森ノ宮医療学園専門学校 校長
常務理事	青木 元邦	平成27年4月	7-1-1	森ノ宮医療大学 学長
常務理事	安田 実	平成11年5月	7-1-2	
常務理事	荻原 俊男	平成23年4月	7-1-3	
理事	瀬川 敏未	令和5年11月	7-1-3	森ノ宮医療学園法人本部長
理事	石塚 充弘	令和5年11月	7-1-3	森ノ宮医療学園専門学校 副校長
理事	尾崎 朋文	平成25年4月	7-1-2	
理事	上條 藤夫	令和4年12月	7-1-2	外部理事
理事	松浦 成昭	平成31年4月	7-1-3	外部理事
理事	笠山 宗正	平成31年4月	7-1-3	外部理事
監事	小林 由幸	平成14年10月		
監事	日根野 健	令和4年10月		

(2024年5月1日現在)

6. 評議員の概要

・定員数 17 ～ 29 名 ・現員数：23 名

氏 名	選任区分	氏 名	選任区分	氏 名	選任区分
山下 仁	25-1-1	房前 素徳	25-1-2	鈴木 信	25-1-3
鍋田 智之	25-1-1	浜田 暁	25-1-2	赤丸 敏行	25-1-3
松下 美穂	25-1-1	清水 尚道	25-1-2	安田 実	25-1-3
吉村 弥須子	25-1-1	尾崎 朋文	25-1-2	青木 元邦	25-1-3
石塚 充弘	25-1-1	河内 明	25-1-3	吉岡 敏治	25-1-3
瀬川 敏未	25-1-1	森 優也	25-1-3	前川 佳敬	25-1-3
在川 洋平	25-1-1	小島 賢久	25-1-3	上條 藤夫	25-1-3
森谷 正之	25-1-1	葉山 直史	25-1-3		

(2024年5月1日現在)

7. 教職員の概要

●大学

区分	人数
本務教員	151
本務職員	75

(学校基本調査に基づく)

●専門学校

区分	人数
本務教員	22
本務職員	17

(学校基本調査に基づく)

●森ノ宮医療学園ランゲージスクール

区分	人数
本務教員	0
本務職員	0

●法人本部、その他事業所

区分	人数
本務職員	13

(2024年 5 月 1 日現在)

8. その他

■主な連携先

締結年月日	連携先機関等（現在の名称）	連携の種類	備考
H22.4.6	地方独立行政法人大阪病院機構 大阪急性期・総合医療センター	相互連携	大阪府立急性期・総合医療センターから 改称（2017/4/1）
H23.7.11	医療法人協和会 千里中央病院	相互連携	
H23.12.9	医療法人錦秀会	相互連携	
H25.5.27	公益財団法人田附興風会医学研究所 北野病院	相互連携	
H26.1.9	大阪府住之江区	包括連携	
H26.1.15	医療法人協和会	相互連携	
H26.6.3	高槻市教育委員会	連携協定	
H26.11.19	医療法人社団有隣会 東大阪病院	相互連携	森ノ宮医療大学保健医療学部との連携
H26.11.25	吹田市教育委員会	連携協定	
H27.2.19	学校法人相愛学園 相愛大学	包括連携	
H27.3.9	社会医療法人景岳会 南大阪病院	相互連携	
H27.4.15	大阪市教育委員会	※	※ボランティアについての協定
H27.7.27	守口市教育委員会	連携協定	
H28.1.29	社会福祉法人帝塚山福祉会	相互連携	

H28.6.13	地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター	相互連携	大阪府立成人病センターから改称 (2017/4/1)
H28.8.22	学校法人常翔学園	※	※スタッフディベロップメントにおける 大学間連携
H29.2.24	社会医療法人純幸会 関西メディカル病院	相互連携	
H29.10.5	株式会社かなえるリンク	相互連携	森ノ宮医療大学保健医療学部との連携
H30.1.18	放送大学	単位互換	
H30.1.26	公益財団法人日本生命済生会 日本生命病院	相互連携	日生病院から改称 (2018/4/30)
H30.4.19	ミズノ株式会社	包括連携	高等学校への活動支援、 地域への社会貢献活動 等
H30.11.1	近畿大学病院	相互連携	
H30.12.3	大阪重粒子線センター	相互連携	
R2.9.7	社会医療法人愛仁会	相互連携	大学院看護学専攻 NP コース開設に 向けての協力
R2.10.5	独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪みなと中央病院	相互連携	学生の救急時の受入
R2.11.30	イカリソース株式会社	相互連携	学校法人森ノ宮医療学園としての連携
R2.12.21	独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪病院	相互連携	
R3.6.7	西日本旅客鉄道株式会社 近畿統括本部大阪支社	相互連携	学校法人森ノ宮医療学園としての連 携大阪環状線 60 周年を契機とした 鉄道事業を通じた協力
R3.8.23	NTT ドコモレッドハリケーンズ大阪	相互連携	BIODEX 利用を通じた学術データ提供、 地域活性化
R4.4.26	西尾レントオール株式会社	相互連携	新型コロナウイルス職域接種の共同実 施、熱中症予防に関する共同研究

R4.5.30	医療法人聖和錦秀会 阪和いずみ病院	相互連携	
R4.9.16	大阪市	包括連携	市民サービスの向上と大阪市内における地域活性化の推進
R5.8.4	独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター	相互連携	
R5.10.16	独立行政法人労働者健康安全機構 大阪労災病院	相互連携	
R6.12.24	学校法人OCC	包括連携	学校法人森ノ宮医療学園としての連携

II. 実施事業と成果

1. 森ノ宮医療大学

【サマリー】

開学18周年を迎えた本年度から第3期中期計画が始動し、学園目標として「西日本トップ!」を掲げた。在学生・卒業生・保護者・教職員・地域等様々なステークホルダーの満足度を高めるべく教育/研究事業の発展施策に取り組み「ブランディング」を高め、地域に根付く医療系総合大学として教職員・附属クリニックが連携し、社会連携事業・地域貢献事業を積極的に展開した。各種センターを中心とした教職員の協働、3学部体制での教学システムの強化と充実、IPEの拡充、魅力的な包括的学修支援体制の構築、附属クリニックの充実、インクルーシブ医科学研究所の活性化、企業連携事業・大阪万博連携事業等を展開した。

(1) 実施事業の概要

① 教育研究機関としてのブランディング強化

2024年度、総合リハビリテーション学部新たに言語聴覚学科が開設され、3学部8学科および大学院・専攻科を擁し、ハード面では葵棟が新たに竣工し、医療系総合大学として一つの完成形を迎え、量的拡大から質的向上へ転換しつつ、医療系総合大学として認知度向上・ブランディングを強化した。看護学部（看護学科）、総合リハビリテーション学部（理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科）、医療技術学部（臨床検査学科、臨床工学科、診療放射線学科、鍼灸学科）の3学部体制での円滑な運営と3学部体制を基盤とした教育、研究、社会貢献等での取り組みを更に強化し、IPEの拡充、魅力的な包括的学修支援体制の構築によるブランディングを進めた。

2025年度に向けて、森ノ宮医療学園校友会から寄附をいただき、閉校予定の森ノ宮医療学園ウェルランゲージスクール校舎を改修し、在学生および卒業生のコミュニティスペースとして活用するとともに、鍼灸臨床センターを移転、拡充を行い、地域住民の方々の健康増進に寄与していく。

「教育」

教育面での質向上を目指して様々な取り組みを展開した。学部教育では「3学部体制」により、各学部においてこれまで以上に専門知識・技術を習得できる教育体制を構築するとともに、学部間におけるIPE教育をさらに充実させるため、2025年度からシミュレーションセンターが始動する。看護学部では、看護学科・保健学研究科看護学専攻・助産学専攻科を看護学系の一つのユニットとして連携・協働を図る運営体制を定着させ、総合リハビリテーション学部・医療技術学部内においては、学科混成でのカリキュラムを導入するなど積極的な取り組みを実施し、最新機器の導入などハード面での強化と、カリキュラムなどソフト面での強化も合わせて、各学部における教育の魅力増強を図った。

大学院教育では、保健医療学研究科に4つの専攻（保健医療学専攻〔修士課程〕、医療科学専攻〔博士後期課程〕、看護学専攻〔博士前期課程〕、看護学専攻〔博士後期課程〕）を設置し、本学の教育・研究力の強化と、それによるブランド力の向上を目指し

ている。2023年度より『次世代のがんプロフェッショナル養成プラン』に参画し、大阪大学が拠点となる「地域に生き未来に繋ぐ高度がん医療人の養成」プログラムに取り組んでいる。2024年度には本学修士課程に在籍する学生を対象として新たなインテンシブコースを開講し、受講者一名に対して修了証を授与した。

「研究」

研究面では、各学部、学科での取り組みに加えて、インクルーシブ医科学研究所を主体に本学の中心的研究テーマを設定して業績発信に努めてきた。科研費の外部資金獲得支援として、外部業者による科研費セミナーの開催、科研費申請書の添削、応募のためのハンドブック作成や、学長推進研究支援事業、学長奨励研究プロジェクトによる支援、研究員等への科研費応募資格（特定応募資格）の付与など、多岐にわたる支援体制の構築により、科研費獲得および研究論文数の増加と着実に実を結んでおり、西日本エリアの医療系大学（医歯学部養成校を除く）の中ではトップクラスの論文数となった。また、2025年大阪関西万博の大阪ヘルスケアパビリオン内での展示決定など、健康長寿社会の実現というインクルーシブ医科学研究所のコンセプトを産学連携においても発揮することができた。

「社会連携」

社会連携面では、地域に根付く医療系総合大学として、地域連携センターを中心として、大学主催の取り組みのほか、各自治体や企業等と連携して様々な取り組みを行い、社会に向けて発信してきた。特に本学が主催する取り組みとして、本学が連携協定を締結する病院や企業等と連携して行う「市民公開講座」や、本学と同じ南港咲洲地区の太陽の町にお住まいの高齢者の方々を対象に、介護予防や認知症予防、地域コミュニティの活性化を目的として本学学生が主体となって健康豆知識や脳トレクイズなどを運営する「もりもり健康長寿サロン」など、多彩な形で企画運営し、地域と連携してそのニーズに応え、社会貢献に努めている。また、連携協定を締結している大阪市との連携事業として、子宮頸がん予防のためのHPVワクチンの正しい知識の普及のための学生に向けた出前授業の実施や、HIV・性感染症啓発のための大学祭でのブース設置など、2024年度は自治体と強固に連携し積極的に取り組みを行ってきた。さらに、2025年4月13日開幕の大阪・関西万博に向けて「万博に一番近い大学」として、また医療系総合大学として、健康・ウェルビーイングの観点から大阪・関西万博を盛り上げることを目的に、「TEAM EXPO 2025」プログラム／共創パートナーに登録。同じ志を持つ5大学（関西大学・京都光華女子大学・甲南女子大学・武庫川女子大学・森ノ宮医療大学）が連携し、5大学連携プロジェクトとして、5つのチームがそれぞれ健康・ウェルビーイング領域の具体的な課題を出し合い、解決に向けた取り組みを行っている。

これらの取り組みは教育・研究活動をベースとした社会貢献活動であり、本学はこれを大学の社会的使命であると強く認識している。引き続き地域社会からの要望に広く応えるべく努めていく。

「大学附属クリニック」

2022年に開設後、受診者数も増加し地域医療への貢献を着実に果たしている。また、在校生の予防接種や健康管理一元化推進、教職員の福利厚生の実・向上に重要な役割を継続して果たしている。さらに本年度、受診者数の増加・地域からのニーズに対応するため、クリニックの拡充を行った。

② 募集力の確立

テレビCMの放映により、近畿圏だけでなく中四国における本学の認知度を向上させ、2024年度から開始となった遠隔地入試（岡山市・広島市）の成功に繋がった。入学広報センターが中心となり広報課、各学部、学科との情報共有の円滑化を推進し、詳細な分析により広報戦略の多面的な立案と計画遂行を行い、募集力の確立に努めた。学部内・学部間での連携強化による教育、本学独自のIPE、キャリアデザインの充実など、オープンキャンパスでの学部特別プログラムを通じて発信することで、入学志願者を確保・増加に繋がった。さらに、2025年度開設予定のシミュレーションセンター（メディア取材あり）、関西万博への参加内容、様々な社会連携活動への取り組み、各学科の取り組み、医療コラム（セラピア）などを外部へ発信することで、本学のブランディングを高めた。

③ 入試制度改革への対応と地方入試戦略

入試運営センターを中心として、入試に関連する最新情報の共有、詳細な学内外の入試分析による各学部・学科の受験者動向などを検討し入試対策を行うと同時に、下部組織である作問部会での入試問題の詳細な検証により、本学が設定するアドミッションポリシーに叶う入学者の選抜、入試問題の質向上など、入学試験制度の質がさらに向上した。また、2024年度から遠隔地での入試（岡山市・広島市）における運営を行い、遠隔地での受験者が受験しやすい環境を構築した。さらに、2025年度入試においては、一般選抜前期において全日程を受験できる体制を整え、受験生の受験機会を大幅に確保した。

④ 魅力的な包括的学修支援体制の構築

従来からあるMANABELを更に充実させ、入学前教育、リメディアル、学部教育、卒後教育を連動させ、高い国家試験合格率および医療機関へ貢献できる卒後教育体制を構築した。2024年度は学修支援体制をさらに充実するべく、文章力向上サポート、高校生対象動画コンテンツ（welcome manabel）の作成など、入学前からの学修サポートをより強化し、リメディアル教育から専門科目、国家試験合格に至るまでのシームレスな教育サポートを行い、多職種協働学習の促進とその基盤となる学科間交流などを積極的に行った。また、修学上の困難を抱える学生に対しては、ダイバーシティセンターを新たに開設することで、関係する部署が連携して状況把握し、必要な合理的配慮を提供できるシステムの構築を確立した。また、大学附属ペイクリニックとの連携により、学生の健康管理サポート体制を充実させ、学生生活の満足度向上、学修環境の確保に繋がった。さらに、学生の就職活動、ボランティア、アルバイト等を支援し、2024年度は特に「就職支援」を4つのカテゴリに分けてカリキュラムを編成し、情報を届けるという枠組を学生からのみではなく、教職員から見ても分かりやすいカリキュラム構成にすることで、西日本トップクラスの就職率へと繋がった。

⑤ 各部署の取り組み

【看護学部】

2022年度に看護学部、保健医療学研究科看護学専攻として独立し、看護学教育・研究における新たな段階に入って3年目を迎えた。文科省のアフタケアの指摘事項である「教員の定着による看護学教育・研究の質向上」をさらに推進するため、2023年度から開始した教育・研究FD、看護学研究倫理予備審査、大学院合同ゼミ・中間報告会等の教育研究支援の活動を看護学部看護学科・保健学研究科看護学専攻・助産学専攻科を看護学系の一つのユニットとして連携・協働を図る運営体制を定着させた。

この体制を基盤として、看護学科では、2023年度に再構築したDPに基づき、2026年度カリキュラムの改訂に向けての作業に着手できた。大学院前期課程では、「看護教育学」「看護管理学」「急性・慢性・がん看護学」「老年看護学」「精神看護学」「在宅看護学」「育成看護学」「公衆衛生看護学」の8つの専門分野について教授を配して研究指導体制を整備し、2024年度入学生から新カリキュラムを稼働させた。後期課程については、学年進行終了を見据えて、3Pを見直し、新たに2025カリキュラムを策定し学則変更と文科省への届け出を完了した。助産学専攻科では、看護学科教授を助産学専攻科長兼務とする連携体制の構築に向けての準備に着手した。

【看護学部 看護学科】

昨年度の課題を継承し、発展させるべく、教育の質の向上・教育内容の充実、国家試験対策の強化、教員の研究力向上に取り組んだ。

教育の質向上の取り組みとして、昨年度検討し再構築した5つのDPを達成するための2026年新カリキュラムの策定に着手した。カリキュラムの検討に当たっては、2024年5月に公表された「看護学教育モデル・コア・カリキュラム【改定案】」が今後の看護系大学の標準となることから、DPとの整合性、現行カリキュラムの不足や脆弱性を全教員で評価し、主体的参加のWGによる作業と全体へのフィードバックにより総力で取り組んだ。カリキュラム表の学内承認を完了し、カリキュラムツリーに基づいて、科目間の繋がりや知識の積み上げの点検作業が概ね終了した。次年度10月の文科省への変更申請に向けて、シラバスの作成と点検作業に入れる見通しである。

教育内容充実の取り組みとして、医療用シミュレーターの活用に加えて、ナースィングスキル・システムを導入し、基礎看護学および成人看護学分野の演習・実習における自己学習での活用を推進した。また、2025年度入学生から導入する電子教科書を、基礎看護学、母性看護学の授業で試行するとともに、ICTを活用するための教室の整備を行った。

国家試験対策の取り組みとして、低学年模試を導入して早期からの動機づけを行った。4年生に対しては、学生の主体性を重視する支援へと方向転換を図りつつ、模擬試験の成績下位の学生に対しては、担任・チューターが個別指導を強化する等、学生の状況に応じた支援を実施した。結果、看護師・保健師国家試験ともに合格率100%であった。看護師国家試験合格率100%は8年連続、保健師は6年連続であり、学生の主体的な学修姿勢の習熟と教員による支援体制の確立によるものと考えられる。

教員の研究力向上への取り組みとして、研究の適切な実施を支援するための仕組みとして、2024年度から看護学研究倫理予備審査の仕組みを稼働した。申請は21件で、対面での助言で研究計画自体のブラッシュアップを図って、整備した申請書で本審査

の申請に繋げることができた。また、科研費の申請及び採択の向上を目指して、全学の取り組みであるURAの活用に加えて、看護学科独自の取り組みとして、科研費採択経験者から科研費申請のコツを学ぶFD研修会の開催と科研費採択経験者有志による科研費申請書作成の助言を実施した。結果、科研費申請19件、新規採択1件、継続課題4件で、2023年度実績より減じ、看護学科教員全体の科研取得率は13%程度であった。しかし、昨年度に続いて学科教員による助言とURAを併用した課題が採択されていることから、次年度にもこの支援を継続する。一方、筆頭論文掲載は邦文5編と低迷が続いていることから、科研費獲得の推進と研究環境の整備による教員の定着を図ることを優先課題とする。

【総合リハビリテーション学部】

2024年度は、総合リハビリテーション学部新たに言語聴覚学科が開設され、リハビリテーションに関わる3職種のすべてが揃うことにより、充実した教育・研究環境が整った。ハード面では葵棟が竣工し、理学療法学科と言語聴覚学科の講義室・実習室を新たに整備し、また実技・実習等で使用する機器類も最新のものを設置して充実した学生教育を始動した。また、オープンキャンパスでは上記2学科の学科説明、学科体験等を葵棟で実施し、高校生や保護者に総合リハビリテーション学部の充実した教育環境を感じて頂いた。

一方、学部としての情報発信の1つとして、広報課にご協力を頂いて5月の高等学校等教員対象説明会でリハビリテーション3職種を紹介する機会を提供頂き、一般的な職業紹介に留まらず現状での有資格者の就業状況、待遇面での異同等を伝え、生徒の進路指導における情報提供を行った。また、7月には「ひらめき☆ときめきサイエンス」のプログラムを言語聴覚学科の教員と学生の協力を得て実施し、小学生に言語聴覚士やリハビリテーションの仕事について知ってもらう機会を提供した。さらに、2025年度から開講される総合リハビリテーション学部3学科合同カリキュラムのプレイベントとして、10月の大学祭と同時開催で地域に住む子供たちが楽しめるプログラムを開催し、学部教員と学生の協力を得て多くの参加者を迎えることができた。

2024年度入学者は、3学科のすべてで定員を充足し、また出身校の学力レベルも上昇傾向にあり、学生自身が有する能力は高いレベルにある。本年度卒業生の国家試験合格率は、学生と教員の努力により理学療法士国家試験で98.2% (56/57)、作業療法士国家試験で100% (39/39) と良好な結果を得た。今後は、リハビリテーション3職種の養成校として学生が有する能力を十分に伸ばすとともに、それぞれの職種に対する向上心の涵養や自己の将来に対する明確な目的意識を持てるような教育を実践して学生満足度を上げ、入学者全員が4年で国家試験合格に至るよう学科間で協力して環境整備を実施する。

【総合リハビリテーション学部 理学療法学科】

2024年度、理学療法学科では各教員の有する専門知識を活かしたスケール化、プロジェクトの推進力向上、外部連携の強化、認知度向上などを目指し、5領域1部門からなる「領域制」を確立した。学生教育においては、後述の教育内容見直しの結果、学生と共有可能な教育効果判定指標の導入(CBT、実習前後でのOSCE)に加え、先進機器を用いた理学療法の見える化(超音波エコー装置の活用)など、教育内容の充

実に取り組んだ。さらに、研究エフォートの確保を目指して、業務整理・業務圧縮に取り組んだ。これらの成果について、以下の指標を注視し、継続的な見直し、改善を進める。

- ・国家試験合格率：2021度は 98.4%、2022度は 98.6%、2023年度は100%であったが、2024年度国家試験において現役生は 98.2%の合格率であった。
- ・4年卒業率：2024年度の15期生の4年間卒業生数は 50名（卒業率 71.4 %）であり、昨年度の 81.4%よりも下回り、目標とした95%に届かなかった。
- ・科研費・論文採択件数：2024年度科研の新規採択は 2件、継続 6件であり、また論文本数は英文20本、和文 1 本であった。
- ・大学院進学者数：2024年度教育の成果として本学理学療法学科卒業生4名が2025年度入学生として大学院修士課程に進学した。
- ・就職関連：既存の第一志望就職率について検証した結果、安全圏での就職活動を助長していたおそれがあったため、効果判定指標を就職後一年定着率に改定した。2022年度卒業生の就職後一年定着率は89.2%であり、今後の目標を95%に設定した。国家試験に合格した学生の就職率は100%であった。
- ・学生満足度向上：学科独自の学生満足度調査を2024年10月に実施した。教育内容に関して、2023年度は“最新機器を使って”、将来にも役立つ“優れた技術や知識”が期待されているながら、十分に応えられていないことがわかり、教育内容の見直しに着手した。結果、2024年度は「最新機器を用いた教育」は53.8%から79.3%、「優れた理学療法技術の教育」は68.1%から86.6%と大幅にアップした。全体満足度も63.7%から79.3%にアップした。
- ・志願者数確保：高校生への訴求力を高めるため、森ノ宮でしか体験できない内容を中心とした、より魅力あるオープンキャンパスに学科プログラムを改編した。結果、オープンキャンパス参加数は2023年487名、2024年度602名と24%アップした。学科志望者延べ人数は2023年度736名、2024年度960名で30%アップした。しかしながら、第1志望の実志望者数は2023年度200名、2024年度197名でわずかに減少したため、広報課と協力しながらより一層魅力的な企画を立案し志願者数アップを目指す。

【総合リハビリテーション学部 作業療法学科】

2024年度の学科の主な取り組みは、前年度に引き続き、国家試験対策の維持・強化ときめ細やかな学生教育・学習支援である。

2024年度の第60回作業療法士国家試験は5年連続で100%合格を達成できた。2021年度から立ち上げた国家試験対策委員会を中心にして定期的に国家試験対策についてのアップデートを重ね、4年次の新年度早々から開始する国家試験短期集中講座（国試塾）やアクティブラーニングを中心としたグループワークによる基礎学力の向上、あるいは各種業者模試の導入と適宜実施する学生への個別指導、国家試験直前の集中対策講座や教員や卒業生とのペア学習など、森ノ宮医療大学作業療法学科としてのメソッドが完成形に近づいてきていると考えている。ちなみに、全国の大学で2024年度まで4年連続して国家試験合格率100%を達成しているのは本学を含めて2校のみで私立大学では唯一であり、非常に高水準であることが伺える。学生に対するきめ細やかな学習支援としては、i)入学前教育、ii)1年次からの基礎医学補講（担任担当）、iii)4

年間継続した模試の実施（3科目模試・国試過去問）、iv)当事者がスポンサー参加型授業、v)実習前や授業内において客観的臨床能力試験（objective structured clinical examination: OSCE）の導入・ルーブリック評価の実施、vi)臨床実習（CCS方式）・臨床実習指導者研修・オンラインSV会議&研修、vii)校友会主催の卒後教育研修実施・森ノ宮医療大学学術大会における卒業生対象の研修会実施、viii)臨床実習に関しては、これまで学年ごとにバラバラであった「手引き」を一昨年にワーキンググループが中心になって1冊にまとめ上げ、実習施設への配布を行なった。

就職に関しては、キャリアセンターとの連携および教員の就職指導により、就職率97.4%を達成し、第1希望就職率84.2%、臨床実習施設への就職率は84.2%となり、昨年よりは少しだけポイントを下げたものの、かなりの高確率で第1志望および臨床実習施設への就職ができている。

アドミッションにおいては、可能な限り高校出張講義を実施し、オープンキャンパスでの模擬講義も毎回テーマを工夫し、国家試験合格率を前面にアピールするなどの工夫を行い、学科志願者数の増員に努めた結果、第一志望の志願者数が昨年の106名（延べ人数）から116名（延べ人数）と増加傾向となった。さらに、広報課と連携し本学科の周知を図っていきたいと考えている。

教員の研究に関しては、査読付き論文は和文1編、英文5編で、筆頭著者は5名であった。また、科研費に2名が採択された。

【総合リハビリテーション学部 言語聴覚学科】

学科開設初年度となる2024年度は、設置申請内容の着実な履行、臨床実習体制の構築、学生募集、国試対策、仲間づくりを含めた学生満足度向上を学科の主な課題として取り組んだ。

設置申請内容の履行について主に企画課、教務課等と連携して取り組んだ結果、これまでに見直しや修正作業が必要となる事案は発生していない。2025年度から適用される新指定規則に沿った新カリキュラムを策定して申請し、認可を受けた。

言語聴覚士は有資格者数自体が少ないうえに、臨床実習生の指導が可能となる臨床経験5年以上の言語聴覚士が少ないため、臨床実習施設の確保がきわめて困難な状況が続いている。2024年度は臨床実習担当の学科教員を中心に実習施設確保の体制づくりを行い、早期から計画的に実習施設確保に取り組んだ。加えて、キャリア支援課、理学療法学科、作業療法学科をはじめ、学内の多くの教職員の豊富な人脈と多大なる協力を賜り、開設初年度中に2年次の臨床実習Ⅰ（見学実習）に必要な実習施設数を確保することができた。

学生募集は本学科の最重要課題である。対面で志願者と接する機会を重要視し、魅力あるオープンキャンパスのプログラム立案につとめるとともに、学内外の広報機会（高校出張講義、職業体験フェスティバル等）に積極的に取り組んだ。その結果、オープンキャンパスの参加者数は、2023年度の124人から2024年度は224名に増加（前年比180%）、第1志望実志願者数は、2023年度の37人から2024年度は52名に増加（前年比140%）した。

国家試験対策については、国試担当の学科教員を中心に4年間の国家試験対策のスケジュールを立案し、2024年度は1年生の基礎学力の向上および学修習慣の定着に取り組んだ。各学期末に実施した任意の「振り返りテスト」は全員が受験した。これは、

日頃の学修の重要性や国家試験対策の早期開始の意識付けが学生に理解された結果と考える。

仲間づくりを含めた学生満足度向上への取り組みとして、講義・演習内でグループ単位の体験や活動を頻回に取り入れ、ホームルームや学科内交流会などを企画、実行した。言語聴覚学科の学生が多数を占める手話同好会の顧問を学科教員が担当した。

研究面では、科研は継続課題3件と新規採択2件、著書（分担執筆）5冊、論文（筆頭・共著を含む）は和文3本と英文1本であった。

地域および社会への貢献活動として、区民カレッジ、失語症者向け意思疎通支援活動、もりもり健康長寿サロン、ほほえみクラブなどに学科教員が参画した。

【医療技術学部】

2022年に臨床検査学科、臨床工学科、診療放射線科、鍼灸学科の4学科体制で開設され、本年で3年目となる。広報と協働した「学部3学科特別プログラム」では、臨床検査学科・臨床工学科・診療放射線科はどの学科でも同じフィールドで活躍出来ることを発信し、鍼灸学科では実技体験など募集力の強化に繋がるオープンキャンパスを開催した。その結果、第2・第3希望者の増加に繋がり、昨年度に続き臨床検査学科・診療放射線学科では高い入学志願者数を維持し、特に臨床工学科・鍼灸学科では大幅な入学志願者数の増加を認めた。昨年度から開始された学科を横断して学べるエクシードゼミのベーシックコース、アドバンスコースは本年も継続し、来年度からは学部共通の選択科目として更に発展した学部教育プログラムとなる。国家試験合格率も全学科が昨年度同様に全国と比較して高い水準を維持し、キャリア支援課と連携することで全国と比較して高い就職率を維持した。さらに、細胞検査士の高い合格率、早期病院見学実習や学生間交流イベントの開催、卒業研究の学会発表や学生による社会貢献活動の活発化、来年度からAT(アスレティックトレーナー)コースの開設など、学部ブランディングを今後も更に高める。

【医療技術学部 臨床検査学科】

2024年度の臨床検査学科は、①国家試験目標合格率100%、②臨床検査学科第一希望入学志願者の確保、③臨床検査技師に関する法律改正に伴う客観的臨床能力試験の導入と臨地実習の見直しを重要課題としてきた。

「国家試験目標合格率100%」

国家試験対策は、3年生後期の特別補講による基礎学力の向上、国家試験1か月前から成績下位者へ「集中囲い込み国家試験対策の強化」をスケジュールに組み込んだ。結果、合格率100%におよばなかったが、2024年度新卒者は96.8%と全国平均84.6%を大きく上回り、医療系私立大学西日本第4位と高い水準であった。また、新卒国家試験合格者数は、2023年度55名から2024年度60名に増加した。国家試験合格者数も医療系私立大学西日本第4位となった。2025年度も若手教員を中心に学生の学力に応じた指導の強化、1年次から国家試験を見据えた授業を行い、教員・学生一丸となって国家試験合格率100%を目指したい。「臨床検査学科第一希望入学志願者の確保」

臨床検査学科 第一希望入学志願者数は、2022年度355名、2023年度は448名、2024年度411名と西日本医療系私立大学のトップクラスの受験者数となっている。来年度は、医療技術学部選択授業が開講する。医療技術学部の診療放射線学科、臨床工学科、鍼灸学科との連携を密に

し、入試課・広報課の協力のもとに高校生へ医療技術の魅力と必要性をアピール、医療技術学部への入学志願者を増やすことで、学力の高い学生の獲得を目指す。

在学中に知識の向上と専門職資格を習得できる細胞検査士資格取得コース第2期生の講座が修了、修了生は細胞検査士認定試験を受験した。結果、5名中4名が合格した。細胞検査士認定試験の全国合格率は30%程度である。細胞検査士コース2年間の合格率は90%であり、全国トップクラスに位置する。

「臨床検査技師に関する法律改正に伴う臨地実習の見直し」

2023年に臨床検査技師養成校に関する法律改正に伴い、臨地実習に関するカリキュラムが大幅に拡大された。新カリキュラムに対応するため、今年度より臨床実習前の学生評価として、臨床技能・態度を評価する客観的臨床能力試験を実施した。

また、臨地実習では、受け入れ施設は64医療機関となり、西日本医療系私立大学最多の実習施設数と提携することができた。そのすべては地域医療の中核を担う基幹病院である。学生には先端医療を経験、臨床検査技師としての専門的知識・技能を深め、実践能力を培うことができる環境を整えてきた。

就職については、キャリアセンターと協働し進めてきた。2024年度国家試験合格者の就職率は3月の時点で98%と4年生私立大学全国平均88.2%を大きく上回り、全国トップレベルになった。

【医療技術学部 臨床工学科】

2024年度の取り組みは国家試験合格率100%、学習習慣の確立と日常の自己管理、学生確保の取組、教員の研究活動と研修の充実といった内容である。

2024年度は学力低下が弱点であった4年生への勉強指導アプローチがwebアプリの活用、対面補講の強化、学内模試の回数増、フィードバックの実施に重きを置いた。また、個別指導に対して、早期にとりかかり実施することができた。結果、学生理解度向上に繋がり国家試験合格率100%に至ったと考える。1～3年生ではチーム医療見学実習、早期病院見学実習（大阪医療センター）、解剖見学実習といった行事により臨床工学技士のイメージが膨らんだと好評であるため、25年度も実施する。24年度4年生で心電図検定1級取得者を輩出した。学生間でのレクチャーも学年を越えて勉強会を実施できた。また、学生間での交流の場として9月に臨床工学科ボーリング大会と称した、全学年希望制による参加で他学年での交流を深めた。一方で、学生の中にはモチベーション維持に苦労した学年では休学・退学もあったが24年度は減少傾向であった。4年卒業率90%目標であるが、教員一丸となり保護者を交えた面談により臨床工学技士になりたい意欲や、興味を引き出せたことが評価につながる。4年生では、卒業試験の中間結果による保護者を含む4者面談を実施し、国家試験への取り組みや卒業単位への周知説明を行う事で大学・家庭・学生とのトライアングルで信頼の基盤を築くことができ、3月の国家試験まで精神面でのサポートも届いたと感じる。学生確保の取組については、サマースクールやひらめきときめきサイエンスといった従来から実施してきたイベントを実施でき、臨床工学技士への注目度が高まることを期待するとともに、広報課と協同し、本学科の周知が前進したと思われる。また、高校訪問だけでなく出張講義を実施し、これにより低学年層からの臨床工学技士という職種を知るきっかけになった。25年度入試募集では第2希望、第3希望も多く、臨床工学という周知のため新たに25年度は中学生対象の訪問強化に努める。24年度入学生は定員数の60名を超え71名の学生を迎え

ることができた。25年度入試では第2、第3志願者数が増加し22年度、23年度、24年度のオープンキャンパス実施でのキャンパスフリーウォークが大きく反映された結果と推測される。

2024年度「国家試験合格率 100%」を目標に掲げ、結果：国家試験合格率は 新卒100%(41名/41名) (全国平均：78.8%) となった。就職率（進学を含む）は 100%となり、4期生も4月時点で実現となり総合的に高い結果であった年度である。

教員研究/活動では、4年連続ひらめきときめきサイエンスが1名の採択となった。科研費採用が2名の教員で獲得した。また、9月に教員3名がチュニジアのチュニス・エルマナール大学へ訪問し現地学生に講義を実施した。論文業績については、研究発表は多くあるものの、24年度の査読付き論文は無く、4月時点で1編がaccept待ちである。24年度内に論文成果が出ていないことは反省し25年度は1教員が年度内に1編以上の論文が書けるよう進めていく。

教員の離職もなく教員個別面談を実施し問題点を早期に把握し改善することで充実した環境を整え、学生に還元できるよう学生育成に尽力できたと評価する。

【医療技術学部 診療放射線学科】

2024年度より第3期中期計画が始動し、学園目標として「西日本トップ!」を掲げている。本学科ではその実現に向け、「高校生と保護者から選ばれる大学ブランドの確立」、「医療施設、医療関連企業、一般企業から選ばれる卒業生の排出」を目指すブランドデザインを策定し、「入口対策」「在学中対策」「出口対策」「学科ブランド力」の4領域における課題の洗い出しと対策の構築を進めてきた。2024年度は中期計画の初年度であり、2023年度までの継続的な取り組みに加え、新たな施策も導入し、学科内ワーキンググループ（WG）を中心に各種事業を遂行した。

「入口対策」

入学者確保においては、特に一般選抜前期における受験者数の増加を目指し、大学共通試験併用方式を含めた施策を実施した。その結果、一般選抜前期では418名（昨年度176名）と大幅な増加を達成し、全入試合計でも943名（昨年度843名）と着実な成果を上げた。また、オープンキャンパスの充実を図ることで、参加者の満足度向上にも努めた。特に、卒業研究の成果をポスター形式で公開したことで、来場者に対して本学科の学びの深さと学生の主体性を訴求できた。

「在学中対策」

学生の授業に対する満足度向上を目的に、授業の質の改善とフィードバック体制の強化を図った。また、学修に課題のある学生を早期に発見し、担任・学科長・保護者を交えた四者面談を積極的に実施した。これにより、学修意欲の向上と国家試験合格へのモチベーション維持につながった。さらに、医療技術学部内における学科間連携を強化し、学部としての一体感の醸成と他職種連携に関する教育の充実を図った。

「出口対策」

就職支援においては、社会人基礎力の涵養と就職試験に対応するための一般・専門知識の強化を目的に、キャリア支援課と連携しながら対策を講じた。その結果、国家試験合格者のうち、企業就職、進学を含めた就職進学率は90%以上を達成した。また、就職先の安定確保を図るべく、昨年度に引き続き学科独自の病院就職説明会および3学科合同の企業就職説明会を開催し、学生の多様な進路選択を支援した。

「学科ブランド力」

学術研究の推進においては、教員の科研費応募率が100%に達し、現在7件の科研費を獲得して研究を継続している。これにより、研究型教育の推進と学科としての研究力の強化を図った。

2024年4月には、核医学、画像工学、MRI、専門基礎科目を専門とする教員4名を新たに採用し、教育・研究両面における専門性を一層高めた。

教員の社会貢献としては、各種学会・研究会での役員活動、診療放射線技師向けセミナーの講師、マンモグラフィ認定技師などの資格認定試験運営への参画など、多方面での活躍が見られた。また、学生による社会貢献活動も活発化しており、オープンキャンパスや中学生サマーセミナーにおけるボランティア活動、地域高齢者向けの「もりもり健康長寿サロン」での支援活動を通じて、地域とのつながりを深めた。

【医療技術学部 鍼灸学科】

学生募集の結果、2025年度の新入生は74名となり、前年度と同様に高い第一志望者の割合を維持するとともに（第一志望受験者数81名、第一志望合格者実数70名）、2年連続で定員を大きく上回る入学者を確保することができた。これは、オープンキャンパスにおいて広報担当教員をはじめ、学科教員全員が来校者のニーズに寄り添った丁寧な対応を行い、学科の魅力を的確に伝えた成果であり、2年連続で良好な結果を得ることができたものと考えられる（オープンキャンパス参加者の出願率：54.6%）。2025年度からは、鍼灸コース・スポーツ特修コース・ATコースの3コース制が本格的に始動する。そのため、今年度も引き続き丁寧な広報活動を展開し、多くの参加者に本学科の特長と魅力を伝えていきたい。

2024年度のはり師・きゅう師国家試験の結果は、はり師・きゅう師ともに41名が合格し（41名／46名、合格率89.1%）、いずれも全国の大学新卒平均（はり師：84.3%、きゅう師：86.9%）を上回った。しかし、惜しくも合格率90%台には届かず、昨年度に達成した「合格率大学日本一」の座は譲ることとなった。それでも、本学科の合格者数は引き続き全国でも上位に位置しており、全体として高い実績を維持している。一方で、本学科の目標はあくまでも「合格率100%」であり、その達成に向けて、今回不合格となった学生の学習状況や支援体制を丁寧に分析・検証し、次年度に向けてさらなる教育の質の向上を目指す。

本年度も本学から、都道府県の教員採用試験に現役生1名・既卒生3名が合格した。内訳は、大阪市中学校（支援学級）に2名、大阪府高等学校（保健体育）に1名、愛媛県小学校に1名であった。さらに、現役生2名が豊中市講師採用試験にも合格した。2012年以降、教職支援センターによるきめ細やかなサポートのもと、これまでに20名を超える卒業生が教壇に立ち、全国各地で教育現場を支えている。

学科教員による査読付き論文は、和文2編、英文4編であった。今後も、他学科・他学部とも連携し、さらに研究活動を活性化させたい。

■森ノ宮医療大学附属鍼灸臨床センター

2024年度は残念ながら前年度とほぼ同数の患者数であった。初診数も同様であり、臨床センターとしての広報に課題があると考える。年度初めにセンター名が変更されたためパンフレットの作成を計画したが、2025年度4月の移転が決定したため作成を

断念した。2025年度は新規でパンフレット作製およびホームページの改定を行い患者増に努める。夏季及び春季の長期休暇期間における学生実習受け入れを停止したため8, 9, 2, 3月の患者減が生じている。学生実習料金2,000円と正規料金4,000円の差が影響した可能性が考えられる。一方で総収入は431,100円増加した。これは正規料金を支払っても受療を希望する患者の定着が考えられ、一定の成果が得られたといえる。年度初めに1治療者が1診療日に3名以上（予約枠の稼働率75%以上）を目標としたが、結果は59.6%（開院期間を46週と仮定した値）であった。2025年度は90分の診療枠で2名以上の同時診療を可とし、学生実習の充実と患者増、収益増の達成を目指す。

■2024年度実績

	患者数 (名)	初診数 (名)	学生実習数 (名)	雑収入 (円)	校友会 補助金 (円)	総収入
4月	136	7	57	1,800	10,500	327,800
5月	137	16	69	3,000	13,500	314,000
6月	172	17	80	1,200	16,000	378,200
7月	164	10	59	3,600	17,000	357,600
8月	118	10	0	1,800	10,000	388,800
9月	131	9	0	4,800	9,500	445,300
10月	148	12	47	3,000	13,500	378,000
11月	152	10	61	2,400	14,500	383,400
12月	145	11	35	2,400	10,500	380,400
1月	131	11	10	3,000	10,500	335,000
2月	116	9	0	1,800	3,500	424,800
3月	108	4	0	2,400	3,000	386,400
合計	1658	126	418	31,200	132,000	4,499,700

【大学院保健医療学研究科】

「学生募集」

2024年度に実施した入試において保健医療学専攻修士課程4名、医療科学専攻博士後期課程5名、看護学専攻博士前期課程1名、看護学専攻博士後期課程4名の入学予定者を確保した。また、看護学専攻博士後期課程3年の2名が留年した。これにより2025年度の在籍院生は保健医療学専攻修士課程10名、医療科学専攻博士後期課程11名、看護学専攻博士前期課程3名、看護学専攻博士後期課程8名となる予定。

「授業関連」

オンラインと対面の混合で授業を実施し、おおむね予定通りの授業と研究指導が遂行できた。NPコース募集停止に伴い、看護学専攻博士前期課程の研究コースを強化するために、D-Pの再検討とカリキュラムの大幅な改編を行い、2024年度入学生から実施した。博士後期課程のAC終了後を見据えて、カリキュラム改訂を検討した。

「学位授与」

保健医療学専攻において 9 名の修士（保健医療学）、医療科学専攻において 4 名の博士（医療科学）、看護学専攻において 7 名の修士（看護学）の学位を授与した。

「博士前期課程 NP養成コースの収束」

NP コースについては高槻キャンパスを設置し、2022-23年度に延べ 12 名を受け入れて授業を実施した。その結果、カリキュラム参加者全員が診療看護師（NP）資格を得た。同コースは 2024 年度から募集を停止し、その運営を終了した。

「学術セミナーの開催」

2022 年度からインクルーシブ医科学研究所との共催としており、2024年度は 4 回開催した。講師はいずれも本学教員であり延べ 6 名であった。対面での実施とともに、受講できなかった教職員を対象にオンラインでも視聴可能としている。その結果、延べ 675 名の受講者を得た（対面・オンラインの合計）。

【助産学専攻科】

2023年度からの課題を継承し、国家試験合格率100%、就職率100%、内部進学者の促進と定員充足を活動の柱とした。

実習期間が年末に及び、国家試験に向けた受験勉強の時間を切り分けることが難しいことから、実習を通して知識を着実に身につけられるようにした。結果、国家試験合格率100%を達成した。開学以来の快挙であった。就職率も100%で、自己の希望するところに就職できている。

低迷している内部学生の進学を促進するために、3年生・4年生対象のオリエンテーションの実施、学部受験生対象のOC開催に合わせて助産学専攻科OCの実施、受験希望者に対する専攻科長との事前面談の実施等を試みたが、2025年度入試の合格者は計 8名（そのうち内部進学者4名）で、定員充足に至らず、内部進学者も全体の半数に留まる結果となった。また、2026年度入試の対象となる学部4年生の助産師志望者は4名、内1名は他大学の大学院を受験予定で、内部進学者の減少に歯止めが利かない状況となっていることから、助産学専攻科の運営、教育体制、教育内容の抜本的見直しが必要である。

【研究支援センター】

本学の研究支援体制のさらなる充実を目指し、新たに以下の事業に取り組んだ。

「科研費等外部資金獲得支援」

科研費の外部資金獲得支援として、外部業者へ科研費セミナーの2回開催、科研費申請書の添削10件、応募のためのハンドブック作成等を委託した。2回開催したセミナーについて、参加人数は延べ106名であった。また、申請書添削については、各学科およびMINCLで希望者を選考してサービスを利用し、複数課題が採択に繋がった。

また、学長推進研究支援事業としては、下記取り組みを継続して行った。

「学長推進研究支援事業 科研費 研究計画調書 閲覧制度による支援」

科研費における研究計画調書の作成において有効な情報提供を行うことにより、応募の支援、促進、採択件数の増加を目指すため、研究計画調書の開示を行い希望者が閲覧できるようにした。

「学長賞（優秀論文賞）による表彰」

研究活動の促進、研究発表論文投稿の奨励、ならびに優れた論文を広く社会に公表することで本学の学術研究の振興を図ることを目的として、優秀論文発表者に対して学長賞（優秀論文賞）を授与する制度を設けている。受賞者については学内のみならず本学ホームページにおいても公表し、本学研究者の研究意欲の向上を目指している。森ノ宮医療大学 第8回 学長賞については以下の研究者に対し表彰した。

■関根 将 講師（医療技術学部 臨床検査学科）

Sho Sekine, Chim W. Chan, Morris Kalkoa, Sam Yamar, Harry Iata, George Taleo, Achyut KC, Wataru Kagaya, Yasutoshi Kido & Akira Kaneko. Tracing the origins of *Plasmodium vivax* resurgence after malaria elimination on Aneityum Island in Vanuatu. Communications Medicine. 2024.

■上田 淳平 助教（医療技術学部 診療放射線学科）

Junpei Ueda, Hayato Kurata, Miwa Ota, Isamu Yabata, Koji Itagaki, Reika Sawaya, Chiharu Murata, Natsuo Banura, Hiroyuki Nishida & Shigeyoshi Saito. Conditions for late gadolinium enhancement MRI in myocardial infarction model rats that better reflect microscopic tissue staining. Scientific Reports. 2024.

「学長奨励研究プロジェクト「学長奨励研究費（発展的研究体制構築型）」による支援」

効率的なチーム研究体制や学科横断・領域横断的なチーム研究による革新的な研究課題に対して審査の結果支援すべき研究課題であると判断された場合に、学長奨励研究費を配分することで支援を行うもので新規に支援を行った。2024年度は下記チームへ贈呈した。

■学長奨励研究費（発展的研究体制構築型）

研究代表者：工藤 慎太郎 教授（インクルーシブ医科学研究所）

共同研究者：堤 真大、仲本 正美、山口 功、垣本 晃宏

テーマ：ロコモティブシンドロームの予防への挑戦～関節周囲構造と固有受容感覚の interactionに注目して～

「学長推進研究支援事業「学長奨励研究プロジェクト（研究基盤構築型）」による支援」

「学長奨励研究費（研究基盤構築型）」は科研費（若手研究・基盤研究種目）において残念ながら採択には至らなかったものの、審査の結果支援すべき研究課題であると判断された場合に、学長奨励研究費を配分することで支援を行うものである。2024年度は公募を行ったものの、応募がなかったため予算配分課題はなかった。

「研究員等への科研費応募資格（特定応募資格）の付与」

本学の優秀な研究員等に対して一定の条件のもと科研費応募資格（特定応募資格）を付与することで、本学の科研費への応募促進ならびに獲得件数の増加に繋げることを目的する制度を設けている。本制度を利用して優秀な研究員等より申請があり、審査を経て応募資格の付与を行った。

「インクルーシブ医科学研究所の運営に関する支援」

インクルーシブ医科学研究所の会議等の事務的支援を行った。

「その他の支援体制」

- ・文部科学省「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインならびに「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」に準拠した研究機関としての体制の維持・構築、啓発ポスター掲示や大学経営・質保証会議（役員・事務局管理職対

象)での不正事案の共有等を行った。また2024年12月を研究費コンプライアンス強化月間と定め、学内グループウェア(desknet's)により他大学の不正事案や科研費の適正な使用に関する注意事項等を毎週配信することで、教職員の意識改革を目指した。

- ・APRIN e-learning システムを利用した研究倫理教育の実施(研究不正の防止)
- ・研究費コンプライアンス研修会による倫理教育の実施(研究費不正の防止)
- ・内部資金研究費の研究実態に応じた適正配分による効率的な研究推進・研究活動支援
- ・科研費・厚労科研等の外部資金研究費への応募・申請支援(研究計画調書の事務的確認・支援、交付申請・委託研究契約手続き等の実施、その他応募支援)
- ・学術リポジトリ(web)上での「森ノ宮医療大学 紀要」の発刊
- ・ひらめき☆ときめきサイエンスの実施における事務的支援
- ・大学院学術セミナーの開催の開催における講師依頼や学内周知等の事務的支援

【インクルーシブ医科学研究所】

設立 5 年目となり、1 年目から取り組んできた科研費獲得および、研究論文数の増加が着実に実を結んでいる。具体的には 2021 年には 36 件であった英語論文は、2022年には59件、2023年は54件、2024年は61件となった。この結果は西日本エリアの医療系大学(医歯学部養成校を除く)の中ではトップクラスの論文数である。特に、筆頭著者や責任著者が本学の教員となっている論文数は2021年で15件であったものが、2024年は33件と2倍以上の数字となった。

『健康長寿社会の実現』というインクルーシブ医科学研究所の研究テーマを掲げて、より基幹となる研究を発展させるための仕組み作りに着手し、その成果として、特に株式会社Toppan、株式会社フォーカスシステムズとの共同研究の内容をコンソーシアム“Walkcare”として、2025年大阪関西万博の大阪ヘルスケアパビリオン内での展示が決定し、準備を進めている。また脊柱の生理的湾曲を維持することで健康長寿社会の実現に向けた製品の開発を行うStyleブランド(株式会社MTG)との共同研究から生まれたソファ(Style sofa WL)の市場へのリリースも行い、健康長寿社会の実現というMINCLのコンセプトを産学連携においても発揮することができた。

【健康管理センター】

森ノ宮医療大学附属大阪ベイクリニックと連携し、在学生のワクチン接種をスムーズに行うことで実習前の感染症予防対策を強化し、診療費補助によって学内学生の健康に寄与する取り組みを継続した。また、社会状況を加味した大学における登校制限ルールの見直しにより感染症の拡大の防止に努め、相談室の新設および各学科教員との連携した学生のメンタルヘルスケア支援に努めた。さらに、ダイバーシティセンターと連携し学生への合理的配慮の提供に寄与した。

「健康増進関連事項」

- ・禁煙宣言の遂行(敷地内および近隣の全面禁煙・違反者に対するマナー指導・入学時に誓約書の提出)
- ・大阪ベイクリニックと連携し、診療費の補助、学生急病対応

「健康管理関連事項」

- ・新型コロナ感染症予防対策の実施(感染者数のリアルタイムでの把握とアナウンス、

学科、教務課、学生支援課との密な連携による感染症発症者の抽出・確認・帰宅指示の運用、学生相談受付、登校制限・解除基準の更新と運用、感染症拡大防止に関する啓発活動、唾液 PCR 検査の実施)

- ・大阪ベイクリニックと連携し、実習前の各種予防接種等で連携
- ・新入生に対する健康管理調査に基づく個人面談
- ・外部のカウンセリングシステム (T-PEC) 導入による医療サービスの拡充
- ・Will 申請業務の速やかな実施

「臨地実習関連事項」

- ・臨地実習における実習前健康診断関連業務の一元化
- ・感染症予防対策に関する全学ルールの統一 (日本環境感染学会ガイドラインに準じた抗体価測定・B 型肝炎ワクチン・小児感染症ワクチン接種ルール) に準じた抗体検査～ワクチン接種統一フローの確立および臨地実習機関提出統一フォーマットの作成
- ・大阪ベイクリニックと連携し、実習前検診を実施
- ・必要時 PCR 検査施行

「メンタルヘルスケア」

- ・相談室の新設、心理カウンセラー、看護師などによるカウンセリングの実施
- ・学科教員との連携による支援
- ・外部のカウンセリングシステム (T-PEC) 導入による匿名相談窓口の拡充
- ・外部のハラスメント相談サービス (T-PEC) 導入準備 (2020 年4 月開始)
- ・休学者支援

【学修支援センター】

学修支援センターは、学修への取り組みをサポートし、主体的な学修が可能となるよう種々の取り組みを行っている。2024年度は本学学修支援体制をさらに充実するべく、認知度向上を目標に掲げ、新たに以下の事業に取り組んだ。

- ・文章力向上サポート
- ・高校生対象動画コンテンツ (welcome manabel) の作成

既存事業に関しては以下の内容を継続し、入学前からの学修サポートに始まり、リメディアル教育から専門科目、国家試験合格に至るまでのシームレスな教育サポート、多職種協働学習の促進とその基盤となる学科間交流などに貢献した。

「入学前学修支援」

- ・入学前学修コンテンツ (東進) の提供

「在学生学修支援」

- ・入学時プレイスメントテストの実施
- ・リメディアル科目の学修支援講座 (=ステップアップ講座) 開講
- ・基礎医学科目の学修支援講座 (=ステップアップ講座) 開講
- ・専門科目の学修支援講座 (=ステップアップ講座) 開講
- ・キャリアセンターとの共催にてSPI 対策講座の実施

- ・ VODコンテンツ配信（YouTube, Stream）の運営
- ・ 卒業生を登用したメンター制度（＝センターアシスタント）の運営
- ・ 関連資格取得（ME2種、放射線取扱主任者、医療情報技師、等）サポート
- ・ 国家試験対策サポート
- ・ ICT 活用サポート

【キャリアセンター】

キャリアセンターは、看護学部、総合リハビリテーション学部、医療技術学部、大学院の教員と事務局職員の教職共同で学生の教育・研究等、学生の就職活動、ボランティア、アルバイト等を支援し、学生のキャリアアップと森ノ宮医療大学のブランド力向上を目指している。2024年度のキャリア支援は「就職支援」をポイントとした。「就職を考える」に関わるとして「知る（卒業生イベントの開催）」、「体験する（就職ガイダンス）」、「考える（MORIPAマイステップの構築と運用）」、「働きかける（インターンシップの支援）」という4つのカテゴリに分けてカリキュラムを編成し、情報を届けるという枠組を学生からのみではなく、教職員から見ても分かりやすいカリキュラム構成にした。

現在、医療職全体の有効求人倍率は2倍を超えているが、医療職種内で求人率に差がある。看護、リハビリテーションの職種は2倍を超える高い水準となっているが、医療技術職の有効求人倍率は1.5倍を下回る現状である。2024年度の就職、進学を含む進路決定率（3月現在）は93%（昨年度92%）と若干向上した。就職支援の強化を行った医療技術部の進路決定率（3月現在）は89%となり、西日本トップクラスの就職率となった。

※集計方法は、文部科学省のルールに準ずる。

【入試運営センター】

入試において正確かつ公正な入試運営ができることを目的とし、各入試におけるデータ分析を行い、今後の入試制度につながる取り組みを行っている。2025年度入試においては、一般選抜前期において全日程を受験できる体制を整え、受験生の受験機会を大幅に確保した。また、遠隔地での入試（岡山市・広島市）における運営を行い、遠隔地での受験者が受験しやすい環境の構築を構築した。

【入学広報センター】

入学広報センターは、学生募集に係る企画立案および実施運営を担う、教職協働の組織である。2024年度の活動としては、学部オープンキャンパス、大学院および専攻科説明会をはじめとする各種イベントを実施した。特に夏のオープンキャンパスでは、看護学科と言語聴覚学科、理学療法学科と鍼灸学科が連携したコラボ企画も実施し、本学における専門職間連携教育の魅力発信に努めた。また、広報ツール（パンフレットやWEBサイト・動画）の制作、高校へ出張講義等に取り組んだ。そのほか、入学広報センター会議を毎月1回開催し、学生募集に向けてのベクトルが一致するように、募集広報活動や入試に関する状況把握、データ分析等の共有を行った。

【教職支援センター】

本センターは、本学の教職課程の質的向上を目指すとともに、教員免許状取得及び教職への就業等 教職を志望する学生の支援を目的としている。医療専門職と教員免

許状取得を両立させる環境を学生に提供するため、令和6 年度は次の取組を行った。

「各種ガイダンスの実施」

- ・教育実習内諾に関するガイダンス
- ・教育実習、介護等体験に関するガイダンス
- ・教員免許一括申請に関するガイダンス

「教員採用試験対策」

- ・専任教員による一般教養・教職教養対策講座の実施
- ・教員採用試験受験者へのサポート並びに受験指導
- ・卒業生に対してのサポート（筆記・面接・模擬授業・実技対策）
- ・教員採用試験対策に関する図書の貸出し学校現場・子ども交流体験の実施
- ・学校ボランティア（中学校に5名、小学校に5名が参加）
- ・発達障害児童生徒との交流会（体育館で実施 児童生徒参加者のべ58名）
- ・学生サポートのべ 25 名
- ・学習面や進路等について学生との面談・相談を実施教職事務の集約化:
- ・教育実習、介護等体験に関する業務
- ・教員免許申請に関する業務
- ・教職課程科目及び成績管理に関する業務
- ・教員採用試験、教員採用に関する業務

■令和 6 年度 教職免許状取得実績

- ・教職免許状取得者数[教科：保健体育] 9 名
- ・教職免許状取得者数[教科：養護教諭] 5 名

■令和 6 年度 教員採用試験合格者実績（卒業生含む）

- ・教員採用試験合格者数：4 名（1名現役合格 3名卒業生）

【卒後教育センター】

医療専門職の養成校として、生涯学習の継続を支援することは重要な課題であるため2015年から卒後教育センターを開設し、卒業生の医療者としての育成に取り組んでいる。2024年度は森ノ宮医療大学学術大会を2024年 10 月 27 日（日）に大学祭と同日に開催した。卒業生、関連施設職員、在校生、教員、高校生を含めて、500名を越す参加者が日々の研究について議論を深めた。2024年は森ノ宮医療大学大学院がんプロフェッショナル養成プランと共催して、『温故知新～がん支援医療と多職種連携～』をテーマに開催した。多くの演題の中から以下の演題について表彰を行った。

■最優秀賞

田丸 佳希教授（森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 作業療法学科）
「異常な視線行動が軽度認知障害の検査精度を向上させる」

■優秀賞

寺下 博登さん（森ノ宮医療大学 保健医療学部 診療放射線学科）
「CT画像における臨床画像を用いた骨解像度評価法」
堀内 希隆さん（森ノ宮医療大学 保健医療学部 診療放射線学科）
「非イオン性ヨード造影剤の推算分布容積を基準とした投与ヨード量算出方法の提案」

■校友会奨励賞

田部井 莉香さん（森ノ宮医療大学 保健医療学部 診療放射線学科）
「高濃度乳房に対するマンモグラフィ撮影時の圧迫に関する被験者実験」

■ポスター賞

平林 菜々美さん（森ノ宮医療大学 保健医療学部 作業療法学科）
「褒められることが苦手な集団に作業を介した「ほめ」を行うことで自尊感情に与える影響」

進藤 日向さん（森ノ宮医療大学 保健医療学部 診療放射線学科）
「電子線モンテカルロ計算アルゴリズムを用いた凹凸ファントムにおける線量評価の基礎的検討」

古澤 ひなたさん（森ノ宮医療大学 保健医療学部 理学療法学科）
「扁平足アライメントに対する新たな運動療法が歩行中の足部内運動に与える影響」

福田 彩乃さん（森ノ宮医療大学 保健医療学部 作業療法学科）
「脳卒中患者の上衣更衣動作に影響を与える因子の解明」

西山 結さん（森ノ宮医療大学 保健医療学部 作業療法学科）
「地域在住高齢者の買い物実行に関連する要因の検討－介護予防教室参加者の分析－」

また、BPとして卒業生をはじめ、実習施設、および地域の医療従事者を対象に以下の卒後教育プログラムを実施した。

- ・運動器理学療法アップデート講座
- ・臨床工学周術期管理アップデート講座
- ・呼吸ケア・リハビリテーションテクニカルコース

以上のプログラム修了者から、大学院修士課程に進学した者もあり、学部卒業から大学院までのシームレスな卒後教育を展開した。

【地域連携センター】

地域連携センターは、本学における教育研究活動と地域社会を繋ぐことにより、本学の社会貢献活動を総合的かつ組織的に遂行することを目的として設置された教職協働の組織である。令和6年度は、各教員の社会貢献活動を大学としての取り組みとして集約し、学内での情報共有と外部発信を強化することで、学外のみならず学内での地域社会貢献活動への理解の向上と活性化に努めた。また、本学独自の取り組みとして地域連携センターが行っている南港太陽の町地域にお住まいの高齢者の方を対象としたイベント「もりもり健康長寿サロン」については、地域からの要望も受けて、当初よりも開催回数を増やし、8月以外の毎月開催に変更して実施するなど、地域社会の声にしっかりと耳を傾け、地域に根差した医療系総合大学として取り組むよう努めた。

【共通教育センター】

共通教育センターは学生が共通して学ぶ教養教育の充実を図ることを目的として設置された教職協働の組織である。2024年度もこれまでの活動を継続し、学修支援センターと協力してリメディアル教育（ステップアップ講座）や国家試験対策の実施、国際交流センター事業である「森ノ宮医療大学英語教育プログラム（MEEP）」のTOEIC対策における集中講座の実施を行った。さらに、SPI対策講座、医療技術学部が実施す

る心臓ベシックゼミ、教員対象の統計ソフト活用講座などの実施に協力した。

共通教育センターでは、学生の教育環境の維持・増強のために、教務課と連携して教養科目、専門基礎科目の科目担当者の見直し、確認を行った。

【鍼灸情報センター】

鍼灸情報センターは、鍼灸に関する学術情報を収集し、WebおよびSNSで社会に向けて発信する活動を行ってきた。戦略的には鍼灸業界における本学のステータスの維持、本学鍼灸学科に対する情報提供と学会等外部業務の担当、および保護者や進路担当高校教員の認知度と信頼度の向上という、鍼灸学科のロジスティクスの役割を担っている。

2024年度中にFacebookのフォロワーが約80人増加して1400人となり、X (旧Twitter) のフォロワーは30人あまり増加して835人となった。2024年4月には米国カリフォルニア州のAcupuncture & Integrative Medicine College, Berkeley (AIMC)の鍼灸学生26名に対して本学の鍼灸関連施設の見学および日本式の鍼灸技術の実演と実技体験のイベントを行い、本学に対して1,000米ドルの収入を得た。また、日本の2大鍼灸学術賞のひとつである代田賞の実質的な事務局機能を出版部と共に担った。

【国際交流センター】

国際交流センターは、グローバル化する現代において学生たちの国際的な視野を広げ、学びを深めることを目的とした教職協働組織である。MEEP (Morinomiya English Education Program) では、正課授業の英語科目はもちろん、海外研修の実施、オンライン英会話の提供、TOEIC講座の実施、TOEIC IPテストを学内で年2回 (9月と3月) 実施している。

TOEIC IPテストに関して、今年度は800点を超える学生は現れなかったが、700点を超えた学生が3名、600点を超えた学生が5名と平均点は上がってきている。TOEIC講座は前期講座が20名前後、集中講座は10名前後、後期講座は5名前後、後期集中講座は4名の参加であった。オンライン英会話を今年度も開講した。こちらは前期約30名、後期約20名の受講者があり昨年と同じくらいの人数であった。

2024年度の海外研修は昨年と同様にオーストラリアではあるが、場所をゴールドコーストのGriffith大学に変更した。参加学生は22名と過去最高人数であった。最も参加が多かった学科は臨床検査学科であり、看護学科、診療放射線学科が続いている。しかしこちらに関してはサイクロンの影響があり満足のいく結果ではなかった。不運にも50年ぶりというサイクロンの直撃にあってしまい、前半はずっとホームステイ先にもっているしかなかった。天候が回復してからは大学に通ったり病院見学をしたり、カランビン動物園に行ったりと学生たちはかなり楽しめたようである。

毎年少しずつではあるが学生の英語/海外への意識が高まっているように感じられる。また、海外研修の補助金は他に類を見ない手厚さであるため、これがあるから森ノ宮に決めたという学生も何人か聞いている。MEEPが英語の得意な学生の入学に貢献できていると考えられる。

【校友センター】

校友センターは2022年度4月に新設され、森ノ宮医療学園校友会大学部会の事業計画・運営、予算管理、新規事業立案、校友会本部との連携に関する業務等を業務分掌規

程としている。

2024年度は、コロナ禍以前にも増して卒業生との交流を増やすべく、それぞれの事業を企画・遂行した。具体的には、2024年10月の森ノ宮医療大学学術大会の後援、同日のホームカミングデーの企画・運営、2024年7月の看護部会主催研修会、2025年2月の理学療法部会主催研修会（兼 3学会合同呼吸療法認定士の認定更新用の講習会）、2025年2月・3月の作業療法部会主催研修会、卒業式における卒業生表彰・卒業記念品の贈呈、卒業生による祝賀会・謝恩会の支援、附属図書館への文庫費寄付、附属鍼灸臨床センターの治療費補助、退官する教員の最終講義及び退職記念祝賀会の補助を行った。その他、学園施設の補助や校友会会館の新設にも貢献した。予算管理についても校友会本部との調整が円滑に進み、概ね当初の計画どおりに予算を執行することができた。詳細項目の再検討を行うことでさらに柔軟な運用が可能となった。

ホームカミングデーは165名の関係者にご参加いただき、昨年度を上回る成果であった。広報ツールとして2022年度末に導入したLINE公式アカウントは登録者数が682名まで増加しており、さらなる活用を検討している。大学報については学長室企画課との調整のうえで発刊時期を変更したため2024年度中の発刊はなかったが、2025年度上半期中に発刊予定となっている。今後さらに多くの卒業生との関係を築くことができるように広報活動も展開し、西日本最大の組織率を誇る卒業生ネットワーク構築を目指す。

【IPEセンター】

IPE関連科目の質向上と評価・点検を教職協働で行うための組織として活動を行っている。5つのIPEカリキュラムを、学年ごとに「MBS (Morinomiya Basic Seminar)」、「チーム医療見学実習」、「医療コミュニケーション」、「チーム医療論」、「IPW論 (InterProfessional Work)」と段階を追って授業を展開することで、「チーム医療」の理解から実践までを学修することが可能となった。2024年度、引き続き授業内容について見直しを図り、初年次から全学科混成チームを形成し、5つのIPEカリキュラムを更に有機的につなげることで、IPE教育をより深化させた。本学のIPE教育の集大成として位置付けている「IPW論」において、相愛大学の管理栄養学科とJCHO大阪病院附属看護専門学校が参加し、また本学の作業療法学科・臨床工学科と大阪医療センター附属看護学校が合同で「IPW論」を実施するなど、他校とも積極的な交流を行うことで本学のチーム医療教育を更に発展させた。なお、2025年度からは学生のうちに「失敗を繰り返す」ことができ、より「現場に近い環境下でチーム医療を学ぶ」ことができるチーム医療教育の強化をテーマとしたシミュレーションセンターが始動する。

【ダイバーシティセンター】

障害のある学生に対する対応（合理的配慮）、ジェンダー・セクシャリティに由来する困難を抱える学生への支援、多様なルーツを持つ学生への配慮などを目的として、2024年度からダイバーシティセンターを設置した。本学の各組織、特に各学科、学生支援課、健康管理センター、教務課などと連携協力して、学生がキャンパスライフを送るうえで上記のような事情で困難に陥っている際に相談するセンターとして機能している。

2024年度は、まず合理的配慮について、申請書が提出されてから具体的な配慮の内容に関する合意に至るまでのフローを確立した。また、合理的配慮について学内教職

員が学ぶ機会として、6月20日に京都大学学生総合支援機構障害学生支援部門の村田淳准教授による「差別解消法に基づく合理的配慮研修」と題した講演をFSDセミナーとして実施した。

毎月会議を開催し、申請のあった合理的配慮の検討、合理的配慮対象学生のモニタリング、試験受験時の配慮、バリアフリーその他について協議と情報共有を行った。

【附属図書館】

「情報資源（蔵書や雑誌、データベースなど）の確保」

- ・各学科ならびに学生リクエストなどにより購入図書を選定、約2,401冊を受入れ、蔵書数は約7万3千冊（2025.3月末）となった。
- ・前年度よりデータベースの導入に積極的に取り組んでおり、今年度は電子ジャーナル33件、データベース6件と契約した。またデータベースではProQuest Health & Medical Collection（約4,830タイトル：フルテキスト4,100タイトル）を導入し、利用の促進を図った。
- ・文献複写依頼についても約904件の依頼があった。

「図書館運営の充実化による利用者満足度の向上」

- ・今年度は図書館システムの運用を充実させるために、さまざまなコンテンツ（開館案内や新刊資料の掲示、電子書籍・データベースへのリンクなど）を利用し、利用者の満足度の向上を図った。
- ・来館者数は48,936名と前年度（51,355名）からやや減少傾向にあるが、貸出件数は5,404件と前年度（5,290件）より増加しており、館内滞在時間も長時間になっていた。とくに試験期間中は開館時間を拡大しており、今年度も多くの来館者があった。

「図書館での研修会およびガイダンス、イベントなどの開催」

- ・ProQuestの利用促進を図るため、利用に関する研修会を8月～12月に動画配信にて実施し、利用の促進を図った。
- ・4月～6月にかけて看護学科（90名）、診療放射線学科（180名）、臨床工学科（16名）、言語聴覚学科（41名）、助産学専攻科（8名）、大学院（9名）の文献検索に関するガイダンスを実施した。
- ・11月から学科共通科目（解剖学、生理学など）の国家試験問題を取り上げたイベントなどを開催した。
- ・学外利用の促進するため、夏休み期間（8/1～8/24）に近隣の方を対象に図書館を開放したところ、55名の来館者があった。また大学祭で学生主催の本のフリーマーケットなどでも多数の来館者（土曜日217名、日曜日487名）があった。
- ・南港北中学2名ならびに南港南中学1名の教員社会研修を受け入れた。
- ・学修支援センターとのコラボ企画も開催し、ガイダンスでの学習動画の紹介や書架や館内に学習動画のQRコードを掲示・国試試験対策イベントに動画を取り入れるなどで周知させた。

【事務局：総務課】

総務課では、法人本部学園総務室と連携し、2025年度新卒採用を実施した。またハラスメント防止・メンタルヘルスケアをテーマとした大学全体SD研修を行うとともに、学校法人常翔学園との

合同研修を実施するなど、人材の採用および人材育成に注力した。

一方で「大学マスコットキャラクター」に選定した「もりのん」「めでいぐろう」のLINEスタンプを作成、配布するなどマスコットキャラクター学内外への浸透を図ることにより大学のブランド化を推進した。

また入学式や卒業式などの式典運営、物品発注管理業務など通常業務も滞りなく行い、コスト削減などを推し進めた。

【事務局：施設マネジメント課】

大学全体の施設管理の規模が拡大していることにより、2024年度より「施設マネジメント課」が設置され、言語聴覚学科設置に伴い建築された葵棟を含め、大学全体の施設管理方法を見直した。

セレッソ大阪、オリックスバファローズ、レッドハリケーンズ大阪などのプロスポーツ団体との連携を強化し、学生に向けてプロスポーツ団体の施設見学を実施したほか、地域の小学生以下の子ども達を対象にサッカースクールを実施した。またグリーンスクエアを地域住民の方に開放するなど地域貢献活動にも尽力した。

【事務局：情報システム課】

情報システム課では、2020年度以降WEB 活用推進プロジェクト：「green innovation」を推進しており、引き続きホームページや学生用WEBシステム上で情報設備やMORIパソ、学生サービス案内などの情報発信を行った。

事務局では業務効率の向上を目的にフリーアドレス化を検討しており、その一端として2024年度は事務職員約半数の業務用端末をノートパソコンに入れ替えた。残りの半数については2025年度に入れ替え予定である。

また2025年度には無線システム全面更改など大規模な学内ネットワークの整備を計画しており、事前の準備として東棟-桜棟間の通信帯域確保のため拠点間VPN接続から専用線接続(1G)への切り替えを実施した。

【事務局：教務課】

2025年度からの医療技術学部鍼灸学科アスレティックトレーナーコースの設置に向け、学科教員と共同で設置作業および申請準備作業を行った。また、同様に総合リハビリテーション学部言語聴覚学科における新カリキュラム導入に向けた準備業務を行った。

公開授業については前年度に検討を行ったとおり動画配信により実施した。教室内の雰囲気や学生の反応などがダイレクトに伝わりにくいという課題はあるものの見学時間を自由に設定できる点は好評を得た。

本学の3つのポリシーは、開学以来大きな変更もなく運用されてきたが、3学部8学科を設置するに至り、教育内容も各学科で多岐にわたるため、それぞれの特性に合わせた見直しを行った。

IPEセンターと連携して進めてきたシミュレーションセンターの開設を無事に迎えることができた。本学の特徴であるチーム医療教育を一層推し進めるため、2025年度から本格的に活用していく。

【事務局：学生支援課】

「奨学金」

昨年度に引き続き、本学の独自奨学金においては継続して給付し、学生の修学を支援した。さらに2025年4月からスタートする多子世帯における修学支援新制度についても準備を行い、スタートできる体制を整えた。また、本学学生の奨学金の実状についても分析・可視化することで、在学生の経済状況を把握した。これによって学生の負担状況を把握し、さらなる修学支援のための体制を構築する環境を構築した。

「学生会」

学生主体の自治組織としての成熟を図る1年となった。その結果、学生会に所属する学生は過去最大の人数となり、学生会主催のイベント（リーダーズ研修・フレッシュマン研修・大学祭・交流会・体育祭・勉強会）においても積極的な提案がなされた。特に新入生歓迎会においては約9割程度の新入生が参加し、過去最大の人数が参加することとなった。フレッシュマン研修ではユニバーサルスタジオジャパンにて交流会を実施し、多くの学生が交流を深める機会となった。また、大学祭においては2日間開催し、模擬店を2日連続で出店するなどし、過去最大の規模で実施することとなった。

「課外活動」

新たに新入生オリエンテーション期間中に部活動紹介、個別相談会を開催するなど積極的に課外活動を宣伝し、課題のひとつであった「課外活動」の学生満足度を向上させた。また、新たにハンドボールサークルが立ち上がり、学生の活動の幅が広がった。

「健康管理」

健康管理センターと連携し、学生の健康管理、健康増進、感染症対策、メンタルヘルスケア、臨地臨床実習関連業務等に取り組んだ。昨年度に続き感染症予防に関する対策等の指導ならびに情報発信、情報収集等を実施し、感染症予防と学生教職員の安全確保に努めた。感染症拡大予防の一環として4種の小児感染症ワクチンをはじめ、B型肝炎ワクチンや、インフルエンザ予防接種も大阪ベイクリニックと連携し学生に実施した。

「障がい学生支援」

新たに設立したダイバーシティセンターと連携し、社会的障壁により修学上で問題を抱えている学生に対して支援を行う体制を構築した。特に障害学生の支援においては、学生が障害において修学が困難な場合に学生本人の意思決定を尊重しつつ、大学の方針、構想等も踏まえて、可能な限りの合理的配慮を適応し、学生の自分らしさや特性が尊重され、学生生活を送ることができる環境の構築に努めた。

【事務局：会計課】

会計課では、言語聴覚学科の開設に伴う、在学生・教員・職員の人数の増加への対応と新学科用準備備品や新築の築棟建設に関連する機器備品等の経理処理を行った。また、3学部制となった各学部・各学科の研究活動や教育活動が活発となり、その経費精算処理の件数も増加しており、増加した処理を正確かつ迅速に対応できるよう業務の改善や各課員の処理業務の習熟を図った。

また、財務会計室と業務連携を深め、インボイス制度や電子帳簿保存法への対応や、予算執行管理において実績把握資料の充実に努めた。

学費関連の対応としては、口座振替と銀行振込以外の納付方法の情報収集や、休学者や復学者への変更した学費納入スケジュールへの対応を行った。また、学生支援課と連携し国の修学支援新制度の多子世帯向け第IV区分への対応や、2025年度の制度改定による第I区分から第IV区分の多子世帯への区分改正に対する準備を行った。

【事務局：入試課】

入試課では入試運営センターと連携し、前年度に引き続き入試制度について全学的に協議し改革をおこなった。2024年度においてはWEB出願システムをリニューアルし、入試業務の正確性を向上させるとともに、効率化を図った。入試制度については高等学校における新学習指導要領が変更されたことに伴い、新課程に対応した試験問題の作成に取り組むとともに、岡山、広島において初の遠隔地入試を実施し、遠隔地での受験者が受験しやすい環境を構築した。引き続き社会環境の変化に対応した入試を検討していくとともに、より正確かつ公平な入試運営体制を構築することに注力していく。

【事務局：キャリア支援課】

就職実績がある病院や実習病院など（法人32件・病院55件・企業2件）の人事採用部門やコ・メディカル部門の技師長を訪問、採用傾向などをヒアリングし学生の受験対策に役立てた。

全国の手企業（11社）を招聘し、「医療技術学部 一般企業就職説明会」を開催した。（参加者：3年生118名）今年度一般企業に内定した者が18名と過去最高であったことから、今後も企業との連携を強化しつつ安定的に開催できるよう努めたい。

臨床工学科3年生（60名）に個別キャリア面談を実施し、学生の早期選択・早期活動を支援した。

継続事業としては、SPI対策講座（全11回）を対面・オンデマンドの併用型、小論文対策講座をオンデマンドで実施し、学生が自身のタイミングで学修できるよう体制を整えた。

■学科別進路決定状況（2025年3月末時点）

- ・看護学科：80名／80名（100.0%）
- ・理学療法学科：56名／58名（96.6%）
- ・作業療法学科：37名／39名（94.9%）
- ・臨床検査学科：59名／64名（92.2%）
- ・臨床工学科：42名／44名（95.5%）
- ・診療放射線学科：72名／86名（83.7%）
- ・鍼灸学科：40名／50名（80.0%）
- ・助産学専攻科：8名／8名（100%）

合計：394名／429名（91.8%）

※2024年度卒業生（9月末・3月末卒業生を含む）の進路決定状況

※文部科学省の規定に準じ、講師登録者は進路決定者に含まない

進路未決定者（35名）は、アルバイトおよびパート予定者、講師登録者、留学予定者、求職者、国家試験未受験者および不合格者のいずれかであるが、そのうち3月末時点の求職者数は17名と昨年度を大きく上回った。特に診療放射線学科は、就職活動者

が大幅に増加したこと（約20名）、求人数が他職種より少なく、また求める規模や分野の求人が十分でなかったことから、予想していた以上に苦戦した。

※求職者数（3月末時点）：作業2名、検査2名、工学1名、放射線10名、鍼灸2名

【学長室：企画課】

企画課では、主に以下5つの事業を行った。

「地域連携センターと連携した地域連携・社会貢献活動の推進」

社会連携活動としては、学校法人OCCと包括的連携協定を締結し、ヘルスケア分野および教育分野での教育・研究の協働・推進や、グローバルでの研究・教育・交流の活性化や振興、施設設備の相互利用、学生および教職員の交流等について推進していく。大阪市との連携事業としては、学生を対象に、子宮頸がんを予防するHPVワクチンの正しい知識の普及を目的とした出前授業の実施や、HIV・性感染症啓発のための大学祭でのブース設置など取り組みを推進した。また、地域連携センターと連携し、大学における地域連携社会貢献活動の主管部署として、多様な取り組みの実施や運営支援・調整等を行った。具体的には、NPO法人 大阪区民カレッジからの依頼により、シニア世代を対象に大阪区民カレッジ入学式での基調講演に前川佳敬副学長、6月開催の平野校および10月開催の住之江・住吉校の講座を中谷謙教授が担当した。さらに、本学主催の社会貢献事業として、4月27日（土）に2024年度第1回市民公開講座「ロコモティブシンドロームに対する最新のアプローチ～リハビリテーションから再生医療まで～」（参加者66名）を、10月29日（火）に2024年度第2回市民公開講座「知っておきたい大腸がんのこと」（参加者75名）を開催した。そのほか、南港太陽の町にお住まいの高齢者の方々を対象に、介護予防・認知症予防・地域コミュニティの活性化を目的として、本学学生たちが血圧・脈拍の測定や本学オリジナル体操の実演、脳トレクイズなどを実施する「もりもり健康長寿サロン」を開催した。これまで看護学科・理学療法学科・作業療法学科のみで運営していたものを全学的に実施することとし、地域の方からの要望もあり回数を増やして実施した。また、2025年4月13日より開催の大阪・関西万博に向けた咲洲地域一体での機運醸成の取組である「咲洲プレ万博」の一員として、「咲洲こどもEXPO 2024」への出展を行った。本学からは10月26日（土）に理学療法学科の澤田優子教授、国宗翔講師が「ファミリンピック～親子で楽しく体力測定～」を、10月27日（日）には総合リハビリテーション学部が「だれでもリハビリ体験！！～モルック、おもちゃの魚つりでリハビリに触れてみよう～」を運営し、それぞれ70組（140名）、125組（250名）と多くの方々に参加していただき好評であった。大阪・関西万博への取り組みとしては、健康・ウェルビーイングに関わる学部学科を持つ5大学（関西大学・京都光華女子大学・甲南女子大学・武庫川女子大学・森ノ宮医療大学）が連携して進める5大学連携プロジェクトにおいて、学生たちが健康・ウェルビーイングの観点から課題と感じているテーマごとにグループに分かれ、その解決に向けて興味を持った様々な企業や団体の方に参加していただき、5月30日（木）に「大阪・関西万博／共創イベント『TEAM EXPO 2025』健康・ウェルビーイングテーマセッション」を開催した。

「大学広報」

企画課は、学長室広報課と連携し、あらゆるステークホルダーに向けて大学の取り組み等を発信し、大学の認知度・ブランド力向上に向けた取り組みを行っている。具体的には、公式Webサイトの運営管理や新着情報等の発信、プレスリリース配信等である。さらに、大学の1年間の取り組みをまとめた広報誌「Beyond」を制作し、在学生や卒業生、就職先、

近畿圏の大学や全国の医療系大学等に配布を行った。

「文部科学省等への申請対応」

学科設置や学則変更等に伴い生じる文部科学省への申請業務を行った。具体的には設置計画履行状況等調査やカリキュラム変更に伴う学則変更に関連する申請等を行った。

「教育の質向上等を目的としたIR活動」

IR業務担当部署として、3つのポリシーを踏まえた大学の取り組みの適切性に係る点検・評価にあたり、IR機能を整備して収集・分析した情報を活用できるよう取り組んだ。具体的には各ポリシーにおいて、関連する事務担当部署によるIRワーキンググループを設置し、検討を重ねてPDCAサイクルの確立に努めた。

「学長が推進する事業の運営やサポート」

2023年度に引き続き、2024年度においても学長が推進する事業の円滑な運営に注力し、各種プロジェクトやワーキンググループ、学長会議の運営事務、教育・研究に係る学長事業推進費の適正管理、第4回 荻原賞の公募・運営等を行った。また、シミュレーションセンター設置プロジェクトの運営においては、教育装置の導入にあたり、文部科学省 令和6年度私立学校施設整備費補助金（教育装置）に申請し、10月1日付で交付が決定した。

【学長室：広報課】

広報課では、学生募集に関わる各ステークホルダー（高校生、受験生、保護者、高校・塾・予備校関係等）に対して、医療系総合大学だからできる取り組み、情報発信を強化しつつ、本学認知度の向上、さらには医療分野や本学への理解、興味・関心が高まる広報活動に注力した。特に、2025年春に完成したシミュレーションセンター開設という新たなトピックの情報発信、また西日本各地の受験生から選ばれる大学となるための施策を強化した。

対面型の各種イベントは精力的に開催し、オープンキャンパスでは通常のプログラム内容に加え、医療技術学部3学科、看護×言語聴覚、鍼灸×理学療法の特別プログラムを実施した。オープンキャンパス以外にも、平日の大学見学会（放課後大学見学会）を毎月開催したほか、入試対策講座、医療の仕事体験フェスティバルなども実施し、イベントの総参加者数は2023年度を大きく上回る結果となった。また、2023年度から実施している高校2年生を対象とした本学独自の模擬試験では、前回は上回る約600名の受験があった。WEB関連では、高校生・受験生サイトのTOPページリニューアル、動画コンテンツの拡充、WEB広告用CM動画制作を行い、過去最大のサイトアクセス数となった。SNSにおいては新たにInstagramでの情報発信をスタートさせた。加えて、企画課と連携し運営を行うオウンドメディアサイトのwebマガジン「セラピア」においても積極的な情報発信を行った。そのほか、2023年度までと同様にステークホルダー別に制作した各種発刊物、WEBサイトやSNS、さらには高校訪問や高校ガイダンス、進学相談会を通して情報発信を定期的に行った。

■主な広報活動に関するデータ

- ・年間資料請求者数：38,442件（前年比120.0%）
- ・年間イベント参加者数：7,889名（前年比 115.1%）
- ・志願者数：6,959名（前年比 129.8%）

(2) 事業成果の概要

① 在学生数・定員充足率・退学者数等の推移

学生数		2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1	2025.5.1
看護学科	1年生	91	90	92	93
	2年生	90	91	88	92
	3年生	87	85	86	85
	4年生	90	91	91	93
	計	358	357	357	363
定員		360	360	360	360
定員充足率		99.4%	99.2%	99.2%	100.8%
退学者数		7	12	7	
退学率		2.0%	3.4%	2.0%	

学生数		2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1	2025.5.1
理学療法学科	1年生	70	70	70	70
	2年生	67	70	70	70
	3年生	67	66	69	70
	4年生	76	70	75	81
	計	280	276	284	291
定員		280	280	280	280
定員充足率		100.0%	98.6%	101.4%	103.9%
退学者数		3	4	6	
退学率		1.1%	1.4%	2.1%	

学生数		2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1	2025.5.1
作業療法学科	1年生	50	50	48	45
	2年生	44	48	49	46
	3年生	47	43	47	46
	4年生	48	48	42	49
	計	189	189	186	186
定員		160	160	160	160
定員充足率		118.1%	118.1%	116.3%	116.3%
退学者数		7	7	6	
退学率		3.7%	3.7%	3.2%	

学生数		2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1	2025.5.1
言語聴覚学科	1年生			41	46
	2年生				40
	3年生				
	4年生				
	計			41	86
定員				40	80
定員充足率				102.5%	107.5%
退学者数				1	
退学率				2.4%	

学生数		2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1	2025.5.1
臨床検査 学科	1年生	75	70	72	73
	2年生	71	74	70	70
	3年生	68	69	74	67
	4年生	68	72	82	90
	計	282	285	298	300
定員		270	280	280	280
定員充足率		104.4%	101.8%	106.4%	107.1%
退学者数		4	1	6	
退学率		1.4%	0.4%	2.0%	

学生数		2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1	2025.5.1
臨床工学科	1年生	73	61	71	82
	2年生	68	70	59	70
	3年生	58	59	66	55
	4年生	69	66	60	81
	計	268	256	256	288
定員		240	240	240	240
定員充足率		111.7%	106.7%	106.7%	120.0%
退学者数		13	12	6	
退学率		4.9%	4.7%	2.3%	

学生数		2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1	2025.5.1
診療放射線 学科	1年生	90	87	90	90
	2年生	89	87	87	88
	3年生	88	87	87	85
	4年生		87	99	99
	計	267	348	363	362
定員		240	320	320	320
定員充足率		111.3%	108.8%	113.4%	113.1%
退学者数		6	3	5	
退学率		2.2%	0.9%	1.4%	

学生数		2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1	2025.5.1
鍼灸学科	1年生	70	64	73	74
	2年生	56	67	62	71
	3年生	64	54	65	59
	4年生	68	68	61	76
	計	258	253	261	280
定員		240	240	240	240
定員充足率		107.5%	105.4%	108.8%	116.7%
退学者数		12	6	5	
退学率		4.7%	2.4%	1.9%	

学生数		2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1	2025.5.1
学部計	1年生	519	492	557	573
	2年生	485	507	485	547
	3年生	479	463	494	467
	4年生	419	502	510	569
	計	1902	1964	2046	2156
定員		1790	1880	1920	1960
定員充足率		106.3%	104.7%	106.6%	110.0%
退学者数		52	45	42	
退学率		2.7%	2.3%	2.1%	

学生数		2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1	2025.5.1
大学院 修士課程 (保健医療学 専攻)	1 年生	4	9	6	4
	2 年生	10	6	9	6
	計	14	15	15	10
定員		12	12	12	12
定員充足率		116.7%	125.0%	125.0%	83.3%
退学者数		0	0	0	
退学率		0.0%	0.0%	0.0%	

学生数		2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1	2025.5.1
大学院 修士課程/ 博士前期課程 (看護学専攻)	1 年生	6	7	2	1
	2 年生	2	6	7	2
	計	8	13	9	3
定員		12	15	18	18
定員充足率		66.7%	86.7%	50.0%	16.7%
退学者数		0	0	0	
退学率		0.0%	0.0%	0.0%	

学生数		2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1	2025.5.1
大学院 博士後期課程 (医 療科学 専攻)	1 年生	2	1	6	5
	2 年生	3	2	1	6
	3 年生	1	3	1	1
	計	6	6	11	12
定員		6	6	6	6
定員充足率		100.0%	100.0%	183.3%	200.0%
退学者数		0	0	0	
退学率		0.0%	0.0%	0.0%	

学生数		2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1	2025.5.1
大学院 博士後期課程 (看護学専攻)	1 年生	2	1	1	4
	2 年生		2	1	1
	3 年生			2	3
	計	2	3	4	8
定員		2	4	6	6
定員充足率		100.0%	75.0%	66.7%	133.3%
退学者数		0	0	0	
退学率		0.0%	0.0%	0.0%	

学生数		2022.5.1	2023.5.1	2024.5.1	2025.5.1
助産学専攻科	1 年生	10	9	8	8
	計	10	9	8	8
定員		10	10	10	10
定員充足率		100.0%	90.0%	80.0%	80.0%
退学者数		3	1	0	
退学率		30.0%	11.1%	0.0%	

② 2025年度 看護学部/総合リハビリテーション学部/医療技術学部 入学試験受験者数

看護学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜 【学習成果重視型】	106	16	122	105	16	121	15	0	15
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅰ期 均等配点方式	244	16	260	241	16	257	45	0	45
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅰ期 高得点配点方式	244	0	244	241	0	241	45	0	45
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅱ期 均等配点方式	170	15	185	157	15	172	12	0	12
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅱ期 高得点配点方式	170	0	170	157	0	157	11	0	11
一般選抜前期 A日程 3科目型	125	11	136	123	11	134	15	0	15
一般選抜前期 A日程 2科目型	196	9	205	193	9	202	22	0	22
一般選抜前期 B日程 3科目型	108	9	117	106	9	115	12	0	12
一般選抜前期 B日程 2科目型	176	7	183	171	7	178	21	0	21
一般選抜前期 C日程 3科目型	113	8	121	109	8	117	13	0	13
一般選抜前期 C日程 2科目型	187	7	194	181	7	188	21	0	21
一般選抜 後期	84	3	87	83	3	86	16	0	16
大学入学共通テスト 利用選抜Ⅰ期	54	12	66	54	12	66	9	0	9
大学入学共通テスト 利用選抜Ⅱ期	6	0	6	6	0	6	0	0	0
社会人選抜	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦選抜	12	0	12	12	0	12	12	0	12
計	1995	113	2108	1939	113	2052	269	0	269

理学療法学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜 【学習成果重視型】	59	36	95	59	36	95	12	0	12
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅰ期 均等配点方式	93	53	146	90	53	143	31	0	31
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅰ期 高得点配点方式	93	0	93	90	0	90	31	0	31
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅱ期 均等配点方式	43	50	93	40	47	87	3	0	3
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅱ期 高得点配点方式	43	0	43	40	0	40	3	0	3
一般選抜前期 A日程 3科目型	43	29	72	43	28	71	11	0	11
一般選抜前期 A日程 2科目型	70	19	89	70	19	89	18	0	18
一般選抜前期 B日程 3科目型	28	28	56	28	28	56	7	0	7
一般選抜前期 B日程 2科目型	53	17	70	53	17	70	13	0	13
一般選抜前期 C日程 3科目型	27	27	54	26	25	51	6	0	6
一般選抜前期 C日程 2科目型	46	12	58	45	12	57	11	0	11
一般選抜 後期	18	23	41	17	23	40	6	0	6
大学入学共通テスト 利用選抜Ⅰ期	24	10	34	24	10	34	5	0	5
大学入学共通テスト 利用選抜Ⅱ期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人選抜	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦選抜	16	0	16	16	0	16	16	0	16
計	656	304	960	641	298	939	173	0	173

作業療法学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜 【学習成果重視型】	20	34	54	20	34	54	16	13	29
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅰ期 均等配点方式	14	46	60	12	45	57	7	7	14
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅰ期 高得点配点方式	14	0	14	12	0	12	7	0	7
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅱ期 均等配点方式	7	37	44	6	32	38	4	12	16
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅱ期 高得点配点方式	7	0	7	6	0	6	4	0	4
一般選抜前期 A日程 3科目型	8	33	41	8	32	40	5	1	6
一般選抜前期 A日程 2科目型	10	12	22	10	12	22	7	0	7
一般選抜前期 B日程 3科目型	4	32	36	4	32	36	3	2	5
一般選抜前期 B日程 2科目型	6	13	19	6	13	19	4	1	5
一般選抜前期 C日程 3科目型	6	25	31	5	24	29	3	0	3
一般選抜前期 C日程 2科目型	7	10	17	6	10	16	5	0	5
一般選抜 後期	1	19	20	1	19	20	0	4	4
大学入学共通テスト 利用選抜Ⅰ期	5	13	18	5	13	18	4	0	4
大学入学共通テスト 利用選抜Ⅱ期	0	2	2	0	2	2	0	0	0
社会人選抜	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦選抜	9	0	9	9	0	9	9	0	9
計	118	276	394	110	268	378	78	40	118

言語聴覚学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜 【学習成果重視型】	21	24	45	20	24	44	17	9	26
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅰ期 均等配点方式	10	33	43	10	33	43	6	7	13
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅰ期 高得点配点方式	10	0	10	10	0	10	6	0	6
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅱ期 均等配点方式	7	25	32	7	22	29	4	4	8
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅱ期 高得点配点方式	7	0	7	7	0	7	4	0	4
一般選抜前期 A日程 3科目型	5	12	17	5	12	17	3	1	4
一般選抜前期 A日程 2科目型	8	10	18	8	10	18	5	1	6
一般選抜前期 B日程 3科目型	4	14	18	3	14	17	1	2	3
一般選抜前期 B日程 2科目型	7	11	18	6	11	17	2	0	2
一般選抜前期 C日程 3科目型	3	13	16	2	12	14	1	1	2
一般選抜前期 C日程 2科目型	5	9	14	4	9	13	1	0	1
一般選抜 後期	2	8	10	2	8	10	0	0	0
大学入学共通テスト 利用選抜Ⅰ期	1	7	8	1	7	8	0	0	0
大学入学共通テスト 利用選抜Ⅱ期	0	1	1	0	1	1	0	0	0
社会人選抜	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦選抜	11	0	11	11	0	11	11	0	11
計	101	167	268	96	163	259	61	25	86

臨床検査学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜 【学習成果重視型】	43	45	88	43	45	88	24	0	24
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅰ期 均等配点方式	39	73	112	36	73	109	25	4	29
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅰ期 高得点配点方式	39	0	39	36	0	36	25	0	25
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅱ期 均等配点方式	14	54	68	14	45	59	6	5	11
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅱ期 高得点配点方式	14	0	14	14	0	14	6	0	6
一般選抜前期 A日程 3科目型	38	53	91	37	51	88	12	0	12
一般選抜前期 A日程 2科目型	42	25	67	41	25	66	13	0	13
一般選抜前期 B日程 3科目型	33	42	75	32	40	72	10	0	10
一般選抜前期 B日程 2科目型	38	26	64	37	25	62	12	0	12
一般選抜前期 C日程 3科目型	30	41	71	29	38	67	9	0	9
一般選抜前期 C日程 2科目型	33	24	57	33	23	56	10	0	10
一般選抜 後期	17	24	41	17	24	41	4	0	4
大学入学共通テスト 利用選抜Ⅰ期	26	31	57	26	31	57	4	0	4
大学入学共通テスト 利用選抜Ⅱ期	1	0	1	1	0	1	0	0	0
社会人選抜	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦選抜	4	0	4	4	0	4	4	0	4
計	411	438	849	400	420	820	164	9	173

臨床工学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜 【学習成果重視型】	19	43	62	19	43	62	18	24	42
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅰ期 均等配点方式	13	59	72	12	59	71	10	24	34
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅰ期 高得点配点方式	13	0	13	12	0	12	10	0	10
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅱ期 均等配点方式	4	38	42	2	36	38	1	14	15
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅱ期 高得点配点方式	4	0	4	2	0	2	1	0	1
一般選抜前期 A日程 3科目型	7	33	40	7	31	38	5	11	16
一般選抜前期 A日程 2科目型	7	25	32	7	25	32	5	5	10
一般選抜前期 B日程 3科目型	5	31	36	5	29	34	3	5	8
一般選抜前期 B日程 2科目型	5	27	32	5	26	31	3	4	7
一般選抜前期 C日程 3科目型	5	28	33	4	26	30	3	5	8
一般選抜前期 C日程 2科目型	5	23	28	4	22	26	3	2	5
一般選抜 後期	0	19	19	0	18	18	0	0	0
大学入学共通テスト 利用選抜Ⅰ期	6	13	19	6	13	19	4	0	4
大学入学共通テスト 利用選抜Ⅱ期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人選抜	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦選抜	5	0	5	5	0	5	5	0	5
計	98	339	437	90	328	418	71	94	165

診療放射線学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜 【学習成果重視型】	127	20	147	127	20	147	16	0	16
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅰ期 均等配点方式	168	24	192	167	24	191	27	0	27
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅰ期 高得点配点方式	168	0	168	167	0	167	27	0	27
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅱ期 均等配点方式	137	8	145	121	6	127	9	0	9
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅱ期 高得点配点方式	137	0	137	121	0	121	8	0	8
一般選抜前期 A日程 3科目型	95	19	114	92	19	111	14	0	14
一般選抜前期 A日程 2科目型	151	9	160	148	9	157	23	0	23
一般選抜前期 B日程 3科目型	82	16	98	80	15	95	12	0	12
一般選抜前期 B日程 2科目型	136	8	144	133	8	141	20	0	20
一般選抜前期 C日程 3科目型	76	16	92	74	16	90	11	0	11
一般選抜前期 C日程 2科目型	131	4	135	127	4	131	19	0	19
一般選抜 後期	45	11	56	44	10	54	7	0	7
大学入学共通テスト 利用選抜Ⅰ期	52	14	66	52	14	66	7	0	7
大学入学共通テスト 利用選抜Ⅱ期	1	1	2	1	1	2	0	0	0
社会人選抜	1	0	1	1	0	1	0	0	0
指定校推薦選抜	10	0	10	10	0	10	10	0	10
計	1517	150	1667	1465	146	1611	210	0	210

鍼灸学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜 【学習成果重視型】	37	19	56	37	19	56	27	4	31
総合型選抜 【スポーツ実績重視型】	10	0	10	10	0	10	10	0	10
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅰ期 均等配点方式	13	30	43	12	30	42	5	11	16
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅰ期 高得点配点方式	13	0	13	12	0	12	6	0	6
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅱ期 均等配点方式	7	18	25	7	16	23	4	0	4
公募推薦選抜 【自己推薦型】Ⅱ期 高得点配点方式	7	0	7	7	0	7	4	0	4
一般選抜前期 A日程 3科目型	2	13	15	2	13	15	1	0	1
一般選抜前期 A日程 2科目型	3	10	13	3	10	13	1	0	1
一般選抜前期 B日程 3科目型	3	13	16	3	13	16	1	0	1
一般選抜前期 B日程 2科目型	4	10	14	4	10	14	1	0	1
一般選抜前期 C日程 3科目型	2	12	14	2	12	14	1	0	1
一般選抜前期 C日程 2科目型	5	8	13	5	8	13	1	0	1
一般選抜 後期	1	5	6	1	5	6	1	0	1
大学入学共通テスト 利用選抜Ⅰ期	5	6	11	5	6	11	3	0	3
大学入学共通テスト 利用選抜Ⅱ期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人選抜	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦選抜	20	0	20	20	0	20	20	0	20
計	132	144	276	130	142	272	86	15	101

③ 2025年度 大学院入学試験受験者数

保健医療学専攻 【修士課程】	志願者数	受験者数	合格者	入学者
第1次募集	3	3	3	2
第2次募集	1	1	1	1
第3次募集	1	1	1	1
計	5	5	5	4

看護学専攻 【博士前期課程】	志願者数	受験者数	合格者	入学者
第1次募集	0	0	0	0
第2次募集	0	0	0	0
第3次募集	1	1	1	1
計	1	1	1	1

医療科学専攻 【博士後期課程】	志願者数	受験者数	合格者	入学者
第 1 次募集	1	1	1	1
第 2 次募集	4	4	4	4
計	5	5	5	5

看護学専攻 【博士後期課程】	志願者数	受験者数	合格者	入学者
第 1 次募集	3	3	3	3
第 2 次募集	1	1	1	1
計	4	4	4	4

④ 2025年度 助産学専攻科入学試験受験者数

助産学専攻科	志願者数	受験者数	合格者	入学者
学内推薦入試	4	4	4	4
推薦入試	0	0	0	0
一般入試	25	24	4	4
計	29	28	8	8

⑤ 国家試験合格率

■看護師 第114回

全体 受験者数：63,131人 合格者数：56,906人 合格率：90.1%

新卒 受験者数：56,035人 合格者数：53,718人 合格率：95.9%

本学新卒 受験者数：80人 合格者数：80人 合格率：100%

■保健師 第111回

全体 受験者数：7,658人 合格者数：7,196人 合格率：94.0%

新卒 受験者数：7,308人 合格者数：7,045人 合格率：96.4%

本学新卒 受験者数：10人 合格者数：10人 合格率：100%

■助産師 第108回

全体 受験者数：2,050人 合格者数：2,027人 合格率：98.9%

新卒 受験者数：2,024人 合格者数：2,009人 合格率：99.3%

本学新卒 受験者数：8人 合格者数：8人 合格率：100%

■理学療法士 第60回

全体 受験者数：12,691人 合格者数：11,373人 合格率：89.6%

新卒 受験者数：11,583人 合格者数：11,027人 合格率：95.2%

本学新卒 受験者数：57人 合格者数：56人 合格率：98.2%

■作業療法士 第60回

全体 受験者数：5,693人 合格者数：4,887人 合格率：85.8%

新卒 受験者数：5,000人 合格者数：4,625人 合格率：92.5%

本学新卒 受験者数：39人 合格者数：39人 合格率：100%

■臨床検査技師 第71回

全体 受験者数： 5,131人 合格者数： 4,340人 合格率：84.6%
 新卒 受験者数： 4,231人 合格者数： 3,976人 合格率：94.0%
 本学新卒 受験者数： 62人 合格者数： 60人 合格率：96.8%

■臨床工学技士 第38回

全体 受験者数： 2,598人 合格者数： 2,049人 合格率：78.9%
 新卒 受験者数： 掲載なし 合格者数： 掲載なし 合格率：掲載なし
 本学新卒 受験者数： 41人 合格者数： 41人 合格率：100%

■診療放射線技師 第77回

全体 受験者数： 3,729人 合格者数： 3,159人 合格率：84.7%
 新卒 受験者数： 3,139人 合格者数： 2,893人 合格率：92.2%
 本学新卒 受験者数： 83人 合格者数： 82人 合格率：98.8%

■はり師 第33回

全体 受験者数： 4,150人 合格者数： 3,066人 合格率：73.9%
 新卒 受験者数： 3,169人 合格者数： 2,831人 合格率：89.3%
 本学新卒 受験者数： 46人 合格者数： 41人 合格率：89.1%

■きゅう師 第33回

全体 受験者数： 4,094人 合格者数： 3,068人 合格率：74.9%
 新卒 受験者数： 3,168人 合格者数： 2,846人 合格率：89.8%
 本学新卒 受験者数： 46人 合格者数： 41人 合格率：89.1%

⑥ 職種別求人件数

本学宛にいただいた職種別の求人件数は、以下のとおりである。

職種	件数
看護師	1048
保健師	170
助産師	112
理学療法士	1899
作業療法士	1784
臨床検査技師	653
臨床工学技士	434
診療放射線技師	472
はり・きゅう師	307
その他医療従事者	1429
福祉関係(介護職)	1240
教員	210
事務職	3567
営業職	5306
その他	9821
総計	28452

<有効求人倍率について>

学科別の求人倍率は、全国の大学卒業予定者向けの平均求人倍率を大きく上回る結果となった。

※参考数値2024年度大学卒業予定者の求人倍率全国平均 1.75 倍（リクルートワークス社調べ）

	看護学科	理学療法学科	作業療法学科	臨床検査学科	臨床工学科	診療放射線学科	鍼灸学科
求人件数（件）	876	1121	1042	409	265	320	219
求職者数（人数）	75	55	39	61	43	82	46
求人倍率（倍）	11.68	20.02	26.72	6.70	6.16	3.90	4.76

⑦ 学修支援センター主催事業

2024年度 ステップアップ講座 開催実績

	【VODコンテンツ】タイトル	学科
全4回	医用機器安全管理学	臨床工学
全4回	生体計測装置学	臨床工学
全14回	医用工学	臨床工学
全5回	医用治療機器学	臨床工学
全1回	人体機能補助療法学	臨床工学

	【対面講座】日時	対象学科/担当	延参加者数
全11回	解剖学講座	言語/朝倉	92名
全1回	真夏の情報処理直前対策	言語/佐久間	27名
全2回	解剖学・生理学・音声言語聴覚医学	言語/大根・舘	10名
全4回	解剖学講座	作業/朝倉	61名
全7回	解剖学講座	放射/朝倉	387名
全1回	数学	放射/大鷹	46名
全1回	電磁気の基礎、	放射/高木	55名
全1回	直流・交流回路	放射/高木	39名
全1回	X線と物質の相互作用	放射/大鷹	38名
全1回	検出器（概要）	放射/大鷹	61名
全1回	骨格	放射/大橋	37名
全1回	脳実質、頭部血管	放射/大橋	55名
全1回	胸部領域	放射/上田	38名
全1回	心臓領域	放射/上田	35名
全1回	腹部骨盤領域	放射/上田	31名
全2回	解剖学	理学/朝倉	15名
全4回	運動器疾患	理学/河西、工藤、中田	65名
全2回	神経系疾患	理学/仲本	6名
全1回	ポジショニング	理学/澤田	20名
全1回	車いす介助技術	理学/林	2名
全2回	足関節テーピング	理学/杉本	15名
全1回	InBodyの使い方と解釈	理学/角田	20名
全4回	循環器・呼吸器の解剖組織と検査	検査/小林（彩）、野田	122名
全1回	生化学（代謝）	検査/関根	60名
全5回	臨床微生物学の実習に役立つ知識の整理と国試対策	検査/松尾	234名
全9回	物理/数学リメディアル	工学/佐久間	324名
全17回	ME2種対策講座	工学/CA	384名
全9回	医用機器安全管理学	工学/布江田	144名

全3回	医用治療機器学・生体機能代行装置	工学/中村	82名
全3回	体外循環療法学	工学/加納	138名
全11回	体外循環療法関連	工学/加納	364名
全8回	生体物性工学・生体材料工学・医用機械工学	工学/稲田	139名
全5回	電気工学・電子工学	工学/原	123名
全4回	情報処理工学	工学/中沢	63名

⑧ 研究業績

<英文>

理学療法学科

- Kakuda A, Sawada Y, et al. Multidimensional Benefits of a Tailored Exercise Program in Preventing Frailty: A Community-Based Approach. *Healthcare*. 2024; 12(21): 2183
- Kakuda A. Measuring Tidal Volume with Diaphragm Movement and Chest Circumference. *Physical Therapy Research*. in press.
- Kakuda A, et al. Investigating the Effects of Neuromuscular Electrical Stimulation on Blood Glucose Fluctuation Using an Intermittent Scanning Continuous Glucose Monitor: A Case Study of an Older Adult with Diabetes. *JJPTDM*. 2024; 4(1): 15-21.
- Kawanishi K, Nakamoto M, Mityashita T, Ogita S, Kudo S. Seated Virtual Reality-Guided Exercise Improved Gait in a Patient With Trunk Dysfunction Due to Hip Fracture: A Single-Case Design Study. *Cureus*. 2024 Jun 15; 16(6): e62433.
- Tsutsumi M, Kudo S, et al. Anatomic Study of Hip Pericapsular Muscle Arrangement on the Joint Capsule. *JB JS Open Access*. 2025; 10(1): e24.00153.
- Nakanishi S, Tsutsumi M, Kudo S. et al. Knee joint extension limitation in female patients with knee osteoarthritis affects the infrapatellar fat pad hardness and hemoglobin concentration by isometric quadriceps exercise. *Osteoarthritis Cartilage*. 2024; 7(1): 100559.
- Fukuyama S, Tsutsumi M, Kawanishi K, Kudo S, et al. Association Between Anterior Knee Pain and Soft Tissue Gliding of the Anterior Knee Region After Total Knee Arthroplasty: A Cross-Sectional Study. *Arch Phys Med Rehabil*. 2024; S0003-9993(24): 01400-X.
- Ikezu M, Kudo S, Tsutsumi M, et al. Relationship Between the Sagittal and Coronal Alignment of the Tibiofemoral Joint and the Medial Meniscus Extrusion in Knee Osteoarthritis. *Healthcare (Basel)*. 2024; 12(23): 2412.
- Kawanishi K, Tsutsumi M, Matsuzaki S, Kudo S, et al. *Geriatr Orthop Surg Rehabil*. 2024; 15: 21514593241308536.
- Inada T, Tsutsumi M, Kudo S, et al. Inferior glenohumeral joint capsule thickness in frozen shoulder via ultrasonography. *JSES Int*. 2024; 8(5): 1033-1038.
- Watanabe T, Tsutsumi M, Kudo S, et al. In-shoe multi-segment foot kinematics measurement during the stance phase of running using a stretch strain sensor. *Heliyon*. 2024; 10(14): e34197.
- Tsutsumi M, Kudo S, et al. In vivo movement interrelationships among the medial meniscus, joint capsule, and semimembranosus during tibial rotation. *Sci Rep*. 2024; 14(1): 17022.
- Nakanishi S, Tsutsumi M, Kawanishi K, Kudo S, et al. Effects of Radial Extracorporeal Shockwave Therapy on Piriformis Syndrome: A Single-Case Experimental Design. *Cureus*. 2024; 16(6): e61873.
- Kitano M, Nakamoto M, Kawanishi K, Kudo S, et al. Analyzing muscle thickness changes in lateral abdominal muscles while exercising using virtual reality. *J Phys Ther Sci*. 2024; 36(7): 372-377.
- Noda I, Kawanishi K, Tsutsumi M, Kudo S, et al. Assessment of the ulnar nerve stiffness during valgus stress of the elbow using shear wave elastography: an observational cross-sectional study. *J Ultrasound*. 2024; 27(4): 895-902.

- Nakanishi S, Tsutsumi M, Kudo S, et al. Effect of isometric quadriceps exercise on local microcirculation of the infrapatellar fat pad in female patients with knee osteoarthritis. *Osteoarthritis Cartilage*. 2024; 32(10): 1319-1326.
- Kitagawa T, Kawahata H, Kudo S. Effect of Low-Intensity Pulsed Ultrasound on Macrophage Properties and Fibrosis in the Infrapatellar Fat Pad in a Carrageenan-Induced Knee Osteoarthritis Rat Model. *Cureus*. 2024; 16(4): e59246.
- Tsutsumi M, Kudo S, et al. Capsular attachment on the anterosuperior femoral head-neck junction: A hypothesis about femoroacetabular impingement. *J Anat*. 2024; 245(2): 231-239.
- Hirakawa K, Tsutsumi M, Yamaguchi I, Kudo S. Proposals for talonavicular joint assessment using ultrasound imaging and its reliability and validity. *J Phys Ther Sci*. 2024; 36(4): 208-213.
- Sawada Y, Tanaka E, Tomisaki E, Watanabe T, Okumura R, Kinoshita H, Ito S, Anne T. Active use of local exercise facilities can improve physical performance of community-dwelling older adults. *J Phys Ther Sci*. 2024 Jun; 36(6): 325-329.

作業療法学科

- Yasuhiro Ogawa, et al. Relationship between co-occurring autism spectrum disorder and attention deficit hyperactivity disorder traits and internet addiction among college students in Japan. *Curr Psychol*. 2024; 43: 33382–33389.
- Kagino Shohei, et al. A study on brake-accelerator reaction times in elderly patients after artificial knee joint and hip joint replacement surgery. *Traffic Inj Prev*. 2025; 6: 1-8.
- Higashi Y, Kaneda T, Horimoto T, Kiku S, Somei Y, Ono S, Hirayama K, Atosako H, & Yuri Y. Psychometric Properties of the Toileting Behaviour Evaluation (TBE) Using Rasch Analysis. *Cureus*, 2025; 17(1): e77075.
- Yoshiki Tamaru, Futoshi Matsushita, Akiyoshi Matsugi. Tests of abnormal gaze behavior increase the accuracy of mild cognitive impairment assessments. *Scientific Reports*. 2024; 14(1): 19512,

言語聴覚学科

- Tsuji S, Okubo Y, Kishimoto M, Taniguchi Y, Ishihara Y, Tamura M, Kobayashi S, Watanabe R, Takakubo Y, Tomita T. Modified pustulotic arthro-osteitis diagnostic guidance 2022 - Modified Sonozaki criteria - Secondary publication. *Mod Rheumatol*. 2024; 34(5): 1076-1078.
- Kono K, Konda S, Yamazaki T, Taketomi S, Tamaki M, Inui H, Tanaka S, Tomita T. Sitting Sideways Causes Different Femoral-Tibial Rotations in Each Knee. *Cureus*. 2024; 16(5): e59678.
- Kono K, Yamazaki T, Tamaki M, Inui H, Tanaka S, Tomita T. In Vivo Kinematic Analysis of Mobile-Bearing Unicompartmental Knee Arthroplasty during High Flexion Activities. *J Knee Surg*. 2024; 37(9): 649-655.
- Kono K, Yamazaki T, Ishibashi T, Iwamoto K, Tamaki M, Sugamoto K, D'Lima DD, Tomita T. Can Cadaver Testing Replicate In Vivo Kinematics of Total Knee Arthroplasty? *J Am Acad Orthop Surg*. 2024.
- Kono K, Taketomi S, Yamazaki T, Kage T, Tamaki M, Inui H, Tanaka S, Tomita T. Influence of Axial Rotation Between the Femoral Neck and Ankle Joint on Kinematics in Normal Knees: A Cross-Sectional Study. *J Am Acad Orthop Surg Glob Res Rev*. 2025; 9(1): e24.00169.
- Sugimoto A, Ishibashi T, Yamazaki T, Tamaki M, Okada S, Tomita T. Detection of Multiple Tibial Malalignment-Induced Early Polyethylene Breakage Using Single Plane Fluoroscopy: A Case Report. *JBJS Case Connect*. 2025; 15(1).

臨床検査学科

- Akihiko Matsuo, Yasufumi Matsumura, Keiichiro Mori, Taro Noguchi, Masaki Yamamoto, Miki Nagao. Molecular epidemiology and β -lactam resistance mechanisms of *Enterobacter cloacae* complex isolates obtained from bloodstream infections, Kyoto, Japan. *Microbiol Spectr*. 2025; 13(4): e0248524.

- Kitagawa T, Kawahata H, Kudo S. Effect of Low-Intensity Pulsed Ultrasound on Macrophage Properties and Fibrosis in the Infrapatellar Fat Pad in a Carrageenan-Induced Knee Osteoarthritis Rat Model. *Cureus*. 2024; 16(4): e59246.
- Sho Sekine, et al. Tracing the origins of Plasmodium vivax resurgence after malaria elimination on Aneityum Island in Vanuatu. *Commun Med*. 2024; 4(1): 91.
- Hikari Takeshita, et al. Muscle mass, muscle strength and the renin-angiotensin system. *Clin Sci (Lond)*. 2024 Dec 24; 138(24): 1561-1577.

臨床工学科

- Kohei Nagashima, Hiroya Kano. Perfusionist education in Japan: A survey of challenges and current status. *Sage Journals*. 2024 August 6; online.

診療放射線学科

- Kakimoto A, Fujise D, Hasegawa S, Okuda Y, Ohta Y, Tani R, Niwase M, Miyamoto K, Konishi R, Funahashi M. Virtual reality-based training for radiopharmaceutical administration: development and educational effectiveness. *PLoS One*. 2025 Mar 31; 20(3): e0321101.
- Shinya Imai, Asuka Yamahata, Tatsuhiro Gotanda, Manabu Akahane, Yasuyuki Kawaji, Takuya Akagawa, Hidetoshi Yatake. Evaluation of factors influencing eye lens radiation dose while using radiation protection glasses in interventional radiology: A phantom study. *European Journal of Radiology*. 2025; 184: 111943.
- Kouichi Yamamoto and Keiko Yamamoto. Prevention of Osteoporosis in SAMP6 Mice by Rikkunshi-To: Japanese Kampo Medicine. *Life*. 2025; 15(4): 557.
- Ueda Junpei, et al. Conditions for late gadolinium enhancement MRI in myocardial infarction model rats that better reflect microscopic tissue staining. *Sci Rep*. 2024 Aug 7; 14(1): 18308.

鍼灸学科

- Ayaka Nobue, Masaki Ishikawa. Sex-Specific Differences in Peripheral Nerve Properties: A Comparative Analysis of Conduction Velocity and Cross-Sectional Area in Upper and Lower Limbs. *Diagnostics*. 2024; 14(23): 2711.
- Ayaka Nobue, Kanae Sano, Masaki Ishikawa. Magnetic Garments Promote Parasympathetic Dominance and Improve Sleep Quality in Male Long-Distance Runners Following a 30 km Run. *Sensors*. 2024; 24(21): 6820.
- Sakamoto T, Ueda SY, Nakahara H. Effects of Short-Term Nighttime Carbohydrate Restriction Method on Exercise Performance and Fat Metabolism. *Nutrients*. 2024; 16(13): 2138.

<和文>

看護学科

- 木村清子, 師岡友紀. 日本に在留する外国人の受療行動における課題に関する文献レビュー. *武庫川女子大学看護学ジャーナル*. 2024; 9: 4-13.
- 川添英利子, 酒井英樹. 食事前準備における口腔保湿対策による口腔湿潤度の比較－高齢者と若年者を被験者として－. *人間工学*. 2024; 60(2): 125-133.
- 松田智子, 高木悠哉. 日本の産業革命期における女子教育への一考察－日清戦争前後に視点を当てて－. *日本人間教育学会誌*. 2025; (11).
- 岩佐由美, 藤井千枝子. 「自宅」と「居住系施設」居住者に対する訪問看護ケアの差 パーキンソン病患者を例にした住まいの環境とケアの検討. *日本健康医学会雑誌*. 2025年1月; 33(4): 534-541.
- 岩佐由美, 鈴木美代子. パーキンソン病患者に対する訪問看護実践の分析と理解：オレム看護理論を用いて. *森ノ宮医療大学紀要*. 2025; 19: 1-8.

- ・外村昌子, 村上生美. ノーリフティングポリシーに関する看護系大学教員の認識. 看護人間工学会. 2025年3月; 6. 14-22.

理学療法学科

- ・團野祐輔, 堀竜次. 局所酸素飽和度モニタリング下に実施したくも膜下出血患者2例に対する理学療法経験—局所酸素飽和度モニタリングの有用性についての検討—. 理学療法科学. 2024; 39(4): 195-200.

作業療法学科

- ・辻陽子, 橋本弘子. 精神科訪問看護における作業療法士の実践から期待できる作業療法士の役割. 保健医療学雑誌. 2024; 15(1): 32-42.

言語聴覚学科

- ・富田哲也. 脊椎関節炎overview. 臨床リウマチ. 2024; 36(4): 223-226.
- ・中谷謙, 芝さやか, 館幸枝, 他. 文レベルの発話で非流暢性を呈した症例. 保健医療学雑誌. in press.

鍼灸学科

- ・仲村正子, 金本明梨, 中根征也. 医療系大学に通う女子大学生の生理用品使用と鍼灸認知に関する調査—無料生理用品・温灸器設置についての事前・事後調査—. 暮らしき作陽大学紀要. 2024; 57(1): 3-12.
- ・阿部秀高. ASD児のwell-beingを向上する言語能力に関する一考察. 人間教育学研究. 2025; (11): 1-10.

⑨ 競争的研究資金獲得状況（文部科学省科学研究費助成事業-科研費-）

<新規>

- ・基盤研究(B) 工藤 慎太郎「膝蓋下脂肪体の線維化と酸欠に着目した変形性膝関節症の進行を予防する運動療法の開発」
- ・基盤研究(C) 杉本 圭「機械学習を用いた発達性ディスグラフィアのスクリーニングに関する研究」
- ・基盤研究(C) 山下 仁「プラセボ効果の症状改善への関与に関する人々の認識と研究によるエビデンスのギャップ」
- ・基盤研究(C) 山口 功「肺がん対策型検診に低線量CTを導入するための画質基準標準化に向けた基礎的研究」
- ・基盤研究(C) 藤重 仁子「第二次世界大戦以降におけるアメリカの外国人看護師受け入れ政策」
- ・基盤研究(C) 小川 泰弘「精神障害とインターネット依存—実生活への影響と根拠に基づくカットオフ値の調査」
- ・基盤研究(C) 齋藤 雅子「産後1ヵ月のうつ症状の母親に特化した母子関係性促進に向けた早期介入プログラム開発」
- ・基盤研究(C) 東 泰弘「介護老人保健施設の多職種で活用可能なトイレ動作尺度開発と原因別支援法の構築」
- ・基盤研究(C) 武 ユカリ「在宅ケアにおける多職種のカスタマーハラスメント対策人材育成プログラムの開発」
- ・基盤研究(C) 中原 英博「シリコン製剤を用いた新規体内水素発生方法が持続的パフォーマンスに及ぼす効果の検証」
- ・基盤研究(C) 中沢 一雄「ローターの位相シンギュラリティ類型化に基づく心房細動停止に向けたin silico研究」
- ・若手研究 大鷹 豊「高いエネルギー・時間特性を備えた核医学イメージング用検出器の開発」
- ・若手研究 中村 有希「体外式膜型人工肺における血漿リークのモニタリング方法に関する研究」
- ・若手研究 岩佐 由美「IoTを活用したパーキンソン病患者の入浴中の突然死回避のための危険予知システム開発」
- ・若手研究 松下 太「改良型Stroop testの開発とその有用性」

- ・若手研究 河西 謙吾「VRでの固有感覚に重みづけしたリーチ運動が高齢者の姿勢制御と脊柱後弯に及ぼす影響」
- ・若手研究 小田 啓之「アキレス腱断裂経験者の筋活動・形態的特徴からパフォーマンスが回復しない謎に迫る」
- ・ひらめき☆ときめきサイエンス 辻 義弘「じん臓すごいぜ！人工じん臓で学ぶじん臓の働きとろ過の仕組み」
- ・ひらめき☆ときめきサイエンス 森谷 正之「どうやって食べてるのかな？「食べる」を解きほぐそう！」
- ・ひらめき☆ときめきサイエンス 森 誠司「がんとはどんな病気？がん細胞と正常細胞はどこが違うの？」

<継続>

- ・基盤研究(C) 澤田 優子「ハイリスク出生コホートを活用した持続可能な子育て支援プログラムの開発評価」
- ・基盤研究(C) 井上 さや子「精神科看護師の情動コンピテンスの解明と精神看護実践用評価尺度の開発」
- ・基盤研究(C) 兼田 敏克「要支援者自身がIADL能力の程度と変化を捉える評価尺度の開発」
- ・基盤研究(C) 山本 浩一「がん治療関連倦怠感発症におけるヒスタミン・オレキシン神経系の役割解明」
- ・基盤研究(C) 布江田 友理「ウェアラブルデバイスによる拡張現実と画像処理技術を用いた実技技能評価ツールの構築」
- ・基盤研究(C) 大川 祐世「鍼技法の診療ガイドラインは実用可能か？ランダム化比較試験による検証」
- ・基盤研究(C) 中村 めぐみ「高齢関節リウマチ患者の運動処方時アクティブゴール設定アプローチの構築と効果の検証」
- ・基盤研究(C) 今井 信也「水晶体被ばく測定機能を備えた軽量高減弱な次世代型放射線防護メガネの開発」
- ・基盤研究(C) 松崎 伸介「糖尿病における小胞体ストレス応答とSUMO 化」 (延長)
- ・基盤研究(C) 外村 昌子「感染予防対策と ICT を活用した介護予防プログラムの開発」 (延長)
- ・基盤研究(C) 矢野 ゆう子「婦人科がん術後患者のリンパ浮腫自己アセスメントが受診行動に与える影響」 (延長)
- ・基盤研究(C) 由利 緑巳「日本版リエイブルメントモデル」の構築に向けた IADL 障害評価表の開発研究」
- ・基盤研究(C) 戸田 淳氏「フレイル高齢者における新たな認知症予防プログラムの構築」
- ・基盤研究(C) 中原 英博「鍼刺激が運動時呼吸循環応答及び運動パフォーマンスに及ぼす短期的・長期的効果の検証」 (延長)
- ・基盤研究(C) 増山 祥子「がん緩和ケアとしての鍼の応用可能性：歴史的対照群との比較およびナラティブの評価」 (再延長)
- ・基盤研究(C) 久木元 由紀子「医療系学生に対する終末期ケア多職種連携教育プログラム開発と効果」 (延長)
- ・基盤研究(C) 中谷 謙「視覚探索と視覚入力認知能力におよぼす影響の検討」 (延長)
- ・基盤研究(C) 稲田 慎「多階層3次元心臓モデルを用いた不整脈誘発性・持続性の評価に関するプログラムの開発と検証」 (再延長)
- ・基盤研究(C) 武 ユカリ「訪問看護における暴力防止のためのe-learningによる教育プログラム開発」 (再延長)
- ・若手研究 信江 彩加「生体内の超高解像度イメージングによるアキレス腱ツイスト構造の分類と障害リスク分析」
- ・若手研究 垣本 晃宏「放射性医薬品投与VRシステムにおける緊張感と学習効果の関連性評価」
- ・若手研究 宮下 敏紀「慣性センサーによる高齢者の歩行中の同時収縮の解析手法の開発」
- ・若手研究 堤 真大「疎性結合組織から考える股関節の運動療法革新に向けた解剖学的基盤研究」
- ・若手研究 国宗 翔「複数の障害物回避における視覚運動制御に影響する歩行環境および身体要因の検討」
- ・若手研究 渡邊 翔太「deep learningを利用した新たなbolus tracking法の開発」
- ・若手研究 高木 聡志「低線量肺がん CT 検診の取得データを用いて未発見の乳がんを検出することは可能か」

- ・若手研究 田丸 佳希「MCI高齢者の早期発見を目的とした新たなスクリーニング評価法の有効性の検討」(延長)
- ・若手研究 仲本 正美「VR を用いた座位での選択反応リーチ課題が高齢者の歩行時の足関節機能に及ぼす影響」
- ・若手研究 辻 義弘「造血能向上を図り慢性腎臓病患者の機能性鉄欠乏の改善に効果的な運動プログラムの開発」(延長)
- ・若手研究 東 泰弘「高次脳機能障害患者のトイレ動作尺度の開発とトイレ動作に影響を与える因子の解明」(延長)
- ・若手研究 小川 泰弘「統合失調症における病識の背景要因の解明および要因に基づく新しい治療戦略の構築」(再延長)
- ・若手研究 林 真太郎「高齢者の転倒予防自己効力感と身体能力の自己認識からみるリハ介入の工夫」(再延長)
- ・若手研究 南都 智紀「舌圧波形表示ソフトウェアを用いたフィードバック効果に関する検討」
- ・若手研究 信江 彩加「ヒト全身反応時間を決定する中枢・末梢神経系の可塑性の解明」(再延長)
- ・若手研究 木内 隆裕「片側上肢の運動がもたらす反対側上肢への運動プライミング」(再延長)
- ・挑戦的研究(萌芽) 小林 彩香「形態検査学教育～熟練者がもつ「目」の暗黙知を知覚心理学から解明する」
- ・挑戦的研究(萌芽) 山本 浩一「胸部単純エックス線写真からの骨粗鬆症判定システムの構築とその応用」(再延長)

⑩ 令和6年度連携協定

令和6年12月24日 学校法人OCC … 包括的連携協定

⑪ 社会貢献事業

- ・市民公開講座

日時	テーマ	講演	タイトル	参加人数
4月27日(土) 14:00～16:00	ロコモティブシンドロームに対する最新のアプローチ～リハビリテーションから再生医療まで～	基調講演Ⅰ	ロコモティブシンドロームに対するリハビリテーション	66名
		基調講演Ⅱ	変形性膝関節症に対する最新の治療—再生医療からロボット手術まで—	
		講演Ⅰ	今日から実践できる膝関節に効く筋力トレーニング	
10月29日(火) 14:00～16:00	知っておきたい大腸がんのこと	基調講演	日本人が一番罹るがん＝大腸癌についてもっと知りましょう	75名
		講演Ⅰ	術後の排便コントロール	
		講演Ⅱ	早期発見の鍵：大腸CT検査の実際と効果	

- ・もりもり健康長寿サロン

日時	テーマ	参加者	担当教員	担当学生
4月27日(土)	認知症予防について	8名	外村昌子 (看護学科)	看護学科2名
5月25日(土)	ロコモティブシンドロームについて	6名	田丸佳希 (作業療法学科)	作業療法学科4名
6月22日(土)	認知症について(看護学科) 歩行(ウォーキング)について (理学療法学科)	5名	西原かおり (看護学科)	看護学科3名

7月27日(土)	認知症について	7名	杉本圭 (理学療法学科)	看護学科2名 理学療法学科2名
9月28日(土)	放射線・認知症について	9名	山口功 (診療放射線学科)	看護学科1名 診療放射線学科3名
10月26日(土)	作業療法士とは？ レクリエーション	8名	中村めぐみ (作業療法学科)	作業療法学科4名
11月30日(土)	歯について(看護学科) 膝の関節について(理学療法学科)	7名	小田啓之 (鍼灸学科)	看護学科1名 理学療法学科1名
12月14日(土)	睡眠について(作業療法学科)	8名	原良昭 (臨床工学科)	作業療法学科2名
1月25日(土)	生活習慣と認知症について(看護学科) 認知症についての豆知識(作業療法学科)	7名	中西一 (作業療法学科)	看護学科2名 作業療法学科2名
2月22日(土)	言語聴覚士について 話す・聴く・食べるについて	8名	前田留美子 (言語聴覚学科)	看護学科1名 言語聴覚学科3名
3月22日(土)	臨床検査技師とは？ 認知症と検査について	7名	藤原牧子 (臨床検査学科)	臨床検査学科4名

・ほほえみクラブ

日時	テーマ	参加者
4月16日(火)	たっぷりスリーA体操	20名
5月21日(火)	お口の健康について	20名
6月18日(火)	保健師課程学生によるお話	11名
7月16日(火)	保健師課程学生によるお話	21名
8月20日(火)	運動について	19名
9月17日(火)	ツボ押しで健康長寿	19名
10月15日(火)	楽しく脳を使いましょう	25名
11月19日(火)	たっぷりスリーA体操	18名
12月17日(火)	たっぷりスリーA体操	20名
1月21日(火)	たっぷりスリーA体操	18名
2月18日(火)	大腸がん予防について	18名

(3) 森ノ宮医療大学付属 大阪ベイクリニック

2024年度は土曜日診療（内科、リハビリテーション科）の実施、厚生労働省が推進する電子処方箋等の導入に伴う新たな施設基準等の届出、本学職員の定期健康診断の実施、再生医療の実施件数増等による収益の安定化に向けた施策を実施した。

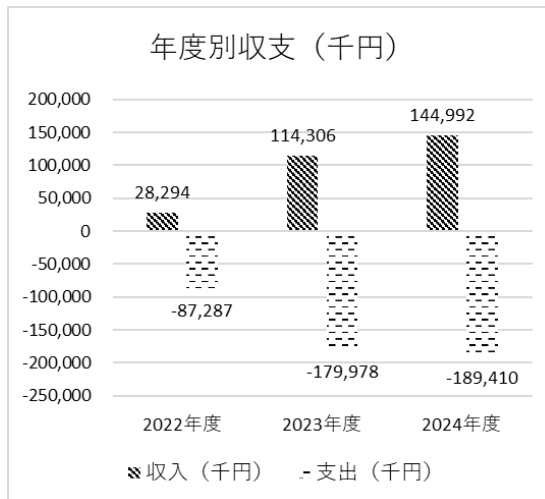
また、来院患者数が増加し内科では昨年対比137%、整形外科では昨年対比127%増加した。住之江区内を中心に多くの患者様にご来院いただき、当院の理念である『地域の皆様の笑顔と安心と未来を創るクリニック』に基づいたクリニック運営を行ってきたことが奏功した。

① 実績報告

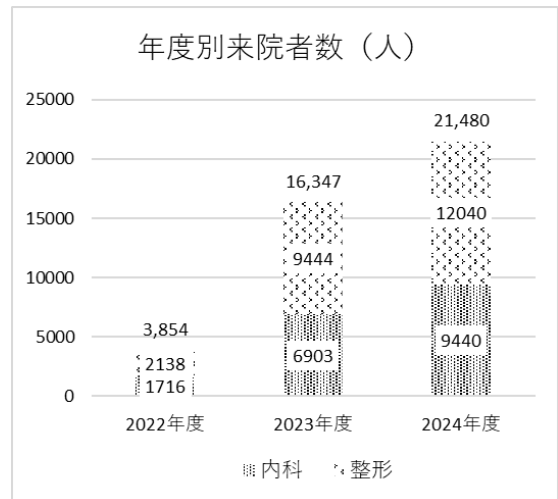
【実績】

- ・ 来院総数21,480名（対前年比131.4%）
- ・ 総収入144,992千円（対前年比126.8%）
- ・ 総支出189,410千円（対前年比105.2%）
- ・ 収支差額▲44,418千円（対前年比67.1%）

【年度別収支】



【年度別来院者数】



② 施設基準等

- ・ 運動器リハビリテーション（Ⅰ）
- ・ 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅲ）
- ・ ニコチン依存症管理料
- ・ 二次性骨折予防継続管理料3
- ・ 生活習慣病管理料Ⅱ
- ・ 外来感染対策向上加算
- ・ 医療情報取得加算
- ・ DX推進体制整備加算

③ 指定機関等

- ・保健医療指定機関
- ・難病特疾病医療機関
- ・再生医療等提供機関
- ・労災医療指定機関
- ・生活保護法等による指定医療機関

④ 連携病院

- ・大阪急性期・総合医療センター
- ・大阪国際がんセンター
- ・日本生命病院
- ・大阪みなと中央病院
- ・南大阪病院
- ・おおさかグローバル整形外科病院
- ・南港病院
- ・多根総合病院
- ・JCHO大阪病院
- ・行岡病院

⑤ 本学との連携実績

- ・学生実習受入（看護学科、理学療法学科）
- ・各種ワクチン接種業務（B型肝炎、インフルエンザ等）
- ・学生実習前検査業務
- ・体調不良学生の受け入れ
- ・職員定期健康診断業務
- ・新入教職員健診業務

2. 森ノ宮医療学園専門学校

鍼灸学科・柔道整復学科ともに、学生の学習定着度について早期の段階から把握に努め、きめ細やかな指導やフォローによって成績向上を図った。

国家試験合格率については、個々の成績分析を行い、国家試験対策の取り組みを強化することで、両学科ともに全国平均を上回る結果となった。また、学生の満足度向上をめざし、就職支援をはじめとする様々な学生支援を行うのと合わせて、施設の改善に取り組んだ。

学生募集においては、オープンキャンパス等の来校者数は2023年度を上回ったものの、2025年度入試の志願者数は141名と前年度から減少した。

(1) 実施事業の概要

2024 年度は第 3 期中期経営計画の初年度となり、学園目標である「西日本トップ」の実現に向けて、以下の事業を展開した。

① 教育事業の概要

「在学生および卒業生への教育活動およびサポート活動」

【鍼灸学科】

- ・1年生へ4月に入学前課題のチェックテストを実施し、それに基づき5月より面談を実施した。その際、学修支援センターの大森先生にも同席頂いた。年間を通して、試験等で低学力者へ実施したところ、昨年度に比べて成績の向上がみられた。また、退学者も減少しており、細やかな面談が抑制につながったと考える。

- ・ゼミ関連では、学生のニーズに応えるため外部講師を招いて実施した。今後も講師とのネットワーク構築のため外部から講師を招聘したゼミを開講したい。

- ・成績や面談の記録を残すための個人カルテを作成し運用を始めた。2025年度からは各課も入力ができるように様式を変更し、学生指導に活用したい。

- ・例年通り、定期試験の他に模擬試験・診断テストを実施し、状況把握を行っているが、成績に反映されないこともあり、受験に対するモチベーションが低いため参考にならないことがあった。指導の徹底と成績に加味されるような仕組みを考えていきたい。

- ・従来から行っている鍼灸受療体験も引き続き継続している。また入学前に鍼灸を経験することにより職業理解を深めるためにみどりの風鍼灸院での入学決定者を対象に入学前受療体験を実施している。

【柔道整復学科】

- ・2022年度入学生からの新カリキュラムの完成年度となり、実技内容の充実化および科目間を系統立てる設定となったため、学生の習熟度の向上につながったと考える。

- ・3学年揃っての附属接骨院実習となり、授業内容との相互性ある内容を展開することができた。

- ・1年生へ4月に入学前課題のチェックテストを実施し、それに基づき5月より面談を実施した。その際、学修支援センターの大森先生から勉強方法などについてアドバイスいたことも

あり、成績不良を理由とした退学者の抑止までとはいかないが、ある程度の軽減につながったと考える。

- ・1、2年生では、診断テストや模擬試験などの定点観測している試験結果より、成績不良者を集めて普段の授業をフォローすることを目的とした寺子屋を実施した。これにより、教員とのコミュニケーションも図れた。

- ・国家試験対策として毎週の小テスト、成績不良者のwinners指導（少人数制指導）、国家試験対策ゼミ、課題ドリル、診断テスト、ミニ模擬試験、模擬試験を行った。

- ・夏期特別講座については、1年生は身体の基本を知る解剖学（骨学）および実技の復習・模擬試験、2年生は業者による物理療法と模擬試験、3年生は卒業生による特別講演（栄養学）と鍼灸学科への内部進学につなげるための鍼灸に関する授業、模擬試験について実施した。さらに、2年生と3年生合同で、代償診断という内容でタブレットを使用した姿勢分析などを実施した。

- ・欠席者への早期連絡、成績不振者の早期面談・指導を実施し、出来るだけ早い段階で当該学生に対してフォローを行うようにした。

- ・解剖学・生理学・柔道整復総論などのゼミ動画の配信を行った。

- ・過去の成績データ（学科全体）から、学生個々の成績（現状）を分析するデータを作成し、個別指導に使用した。

「国家試験対策」

【鍼灸学科】

- ・2024年度ははり師が88.5%、きゅう師が90.1%であった。問題を分析の結果は以下の通りであった。

正答率が約80%の問題が約50%（90問）…過去問で対応可

正答率が約60%の問題が約30%（54問）…過去問では対応困難

正答率が50%未満の問題が約20%（36問）…教科書では補いきれない

以上のことから、正答率が約60%の問題を解くための実力が必要になる。そのためには、外部業者の模試等、常勤教員が作成する以外の問題に触れることが重要であると考えます。

- ・国家試験対策として3年生へ週3日～4日のゼミを行った。また、夏季講習、冬季講習も実施した。国家試験直前の2週間は強化授業を実施した。結果としては、全国平均と同等の成績となった。今後、過去問題だけでなく、外部の模試を受験させる等、新しい問題に触れる機会を確保していきたい。

【柔道整復学科】

- ・2023年度よりも合格率を少し上げることができた。全国的には低下したのも関わらずこのような結果になったことについて、新カリキュラムが完成年度を迎えたことが要因としてあげられる。

- ・各学年において、前期・中期・後期と診断テストを実施した。また、夏休み前と春休み前に1・2年生に模擬試験を実施し、当該学年での学習状況の把握を行った結果、3年生になるまで積み残すことなく、学習を進めることができたと考えます。

- ・毎週の小テスト、成績不良者のwinners指導（少人数制指導）、国家試験対策ゼミ、年末の特別講義、国家試験直前集中講義を実施することで、短期集中的な学習により自信と体力を身に付けることができたと考えます。

- ・外部模試を受験させることで、国家試験会場で緊張感をもって予行演習的に経験することができた。当初は学校が負担する予定であったが、柔道整復学校協会模試が有料となったため、外部模試については、学生の実費による希望者のみの取り組みであった。

「社会貢献」

【鍼灸学科】

- ・例年は卒業生を対象とした森ノ宮鍼灸セミナー「臨活（「臨」床に「活」用できるセミナー）」を行っている。

【柔道整復学科】

- ・森ノ宮柔道杯を開催し、大阪府立高校の合同試合を行った。

「教員研修」

【鍼灸学科】

- ・東洋療法学校協会の教員研修会に参加した。また、教員が希望する研修に参加するようにした。

【柔道整復学科】

- ・全国柔道整復学校協会の教員研修会に参加した。また、日本柔道整復接骨医学会での学術発表および参加、各団体が実施する研修会を周知させ参加の機会を確保した。

②事務関係事業

専門学校事務組織においては、昨年度に引き続き業務改善および効率化について各部署で取り組んだ結果、以下の主要事業を行った。

【教育支援部】

- ・「アロマコーディネーター資格取得講座」については、春季講座10名が受講した。秋季講座については最少催行人数に至らず、実施見送りとなった。また、森ノ宮医療大学助産学専攻科の必修科目としての開講は例年通り開講した。
- ・NESTA パーソナルトレーナー資格養成講座を開催し、2名（定員 20 名）が受講した。

【調査課】

- ・京都治療院の運営及び実習施設として機能していくためのフォローを行うほか、マイナ保険対応及び、助成金申請を行った。
- ・第22回近江杯柔道大会においてをスポーツ臨床センターと協働し、大会時の救護対応を行うほか、副教材として活用できるよう動画記録を行う。今回も9名の学生が参加し、教員の管理下のもと学生によるアイシング・テーピング等の現場実習を行えた。学生のアンケート結果から、実技や臨床実習で学べない事象を経験できる機会の提供ができた。
- ・今年度より入試出願においてWEB出願システムが導入され、入試担当と連携して願書処理システムも入学許可証等入学書類をPDF自動化にするなどシステム変更を行った。
- ・その他、INAC神戸との窓口、遅刻システムの保守更新の対応をした。

【図書課】

- ・2023年度より電子書籍を導入し学外から書籍の閲覧が可能となった。電子書籍も主流になってきており、2024年度は1,366の閲覧があった。
- ・年度の上半期および下半期に教職員を対象に図書購入リクエストを実施した。
- ・図書室運営委員会を2024年9月4日（水）と2024年12月25日（水）に開催し、購入図書を決定したほか、今後の図書室の運営、活動について検討を行った。
- ・図書室運営委員会での決定を受けて新規図書の購入を行った。
- ・図書室利用者からの図書購入リクエストを随時受け付け、月毎に図書委員会の審査を経て承認された書籍を購入した。
- ・校友会から図書購入費として 20 万円の補助を受け、図書購入を行った。
- ・図書室会議を月に一度開催し、新規図書購入リストの作成や図書室運営の改善について検討を行い、随時実施した。
- ・図書室書架の書籍について精査を行い、不要な図書については順次廃棄を行った。
- ・蔵書点検も滞りなく行われた。

【学務課】

- ・2024年度の学生健康診断については外部医療機関に出張健康診断を依頼の上、6月7日に実施した。当日に欠席した学生の健康診断は6月中に個別に行い、最終的な受診率は99.1%であった。
- ・教育訓練給付制度利用者に対し、申請書類の発行を行った。
- ・日本学生支援機構奨学金を始めとする奨学金を利用する学生への支援を行った。
- ・5 月からの約 2 カ月間、「春の就職フェア」として求人情報を本校舎 1 階に掲示した。また冊子化を配布した。
- ・10 月8日に毎年恒例の就職相談会を開催した。参加治療院66院、卒業生を含む参加学生54名であった。
- ・卒業後半年を経過した卒業生に郵送にて進路調査を行い、2023年度卒業生各人の現状を確認することができた。
- ・就職を希望する学生への就職支援を行った。また、治療院等の就職先からの求人票を受付けて、学生に公開した。
- ・毎年実施している次年度入学予定者を対象とした入学前通信教育については56名の利用があった。そのうち早期合格者特典として履修した入学予定者は52名であった。
- ・2025年1月19日に2025年度入学予定者を対象としたプレスクールを開催した。両学科併せて54名の参加があり、アンケート結果では満足度92.5%であった。
- ・はり師きゅう師国家試験および柔道整復師国家試験の出願のサポートを行った。
- ・みどりの風保育園の利用数については、恒常的に利用する学生と、スポットで利用する学生に対してサポートを行った。
- ・学生生活満足度調査を実施した。
- ・2023年度自己点検・自己評価報告書を作成し Web ページにて学生向けに公表した。また、自己点検・自己評価報告書を基に学校関係者評価を行った。

【管理課】

- ・本校舎地下倉庫（機密書類保管倉庫）の漏水止水工事を実施した。
- ・本校舎2～4階 出窓の雨漏り対策工事を実施した。
- ・7階講堂空調機の室外機の修理を実施した。
- ・本校舎屋上に設置の非常用発電機の模擬負荷試験を実施した。
- ・本校舎消防設備の改善を実施した（消火器27本取替え、消火栓ホース30本取替え、防火戸ラッチ式レリーズ取替え、学生ホール誘導灯取替え）。
- ・アネックス校舎ポンプ室内 直結増圧ポンプ漏水対策工事を実施した。
- ・アネックスグラウンドに門扉を設置した（学生会寄贈として）。
- ・緑橋校舎3階非常口扉（2ヵ所）の改修を実施した。
- ・緑橋校舎屋上のタラップ取替えを実施した。
- ・501教室の黒板灯を除くすべての照明器具をLED器具に更新した。
- ・アネックス校舎4階ホールおよび柔道場のLED入替えを実施した。
- ・アネックス校舎廊下・階段の照明をLED化した。
- ・コロナ以来、倉庫となっていた406教室内を整理した。
- ・旧WLSの机・イス120セットを105教室、405教室、406教室、505教室へ移設した。
- ・実技ベッド16台を大学和棟2階の校友会館へ移設した。
- ・本校舎、アネックス校舎、緑橋校舎の年次停電点検を実施した。
- ・緑橋校舎の大地震発生時および火災発生時の避難マニュアルを作成した。
- ・東成消防署立ち会いのもと、本校舎、緑橋校舎の消防訓練を実施した。
- ・東成区役所主催の「東成区災害時協力企業等対象研修会」「防災講習会」に参加した。
- ・事務局での学生・教職員向け冷凍食品の販売について、1,555食の売上げであった（昨年度1,436食）。
- ・1月より新規に3階学生ホールでのお弁当販売を開始した。
- ・7月に緑橋校舎2階テナント「一般社団法人ぐんぐんPOE（児童発達支援・放課後等デイサービス）」において、こどもの健康サークルによるスタッフを対象としたスキンタッチ講習会を開催した。
- ・8月に大阪府立福祉情報コミュニケーションセンター内「特定非営利活動法人 手話言語獲得習得支援研究機構NPOこめっこ」において、こどもの健康サークルによる利用者（親子）を対象としたスキンタッチ講習会を開催した。
- ・春季、夏季、冬季の休講を利用して、一般社団法人ぐんぐんPOE利用者に柔道場・アネックスグラウンドを開放した。
- ・実施要項案の作成や特別協賛の依頼など文化祭開催のサポートを行った。
- ・産業廃棄物に関する管理票について、紙manifestから電子manifestへ運用を変更した。

【入学広報課】

- ・学生募集に関するイベントとして、以下を実施した。
オープンキャンパス、学校説明会、AO入試対策講座、授業見学会、個別相談会など
- ・学生募集ツールとして以下の広報誌を作成した。
学校案内、入試要項一式、高校生／社会人向けリーフレット、イベント告知DM、鍼灸＆

柔整分野リーフレット、柔整トレーナーコース案内、イベントガイド、他府県出身者特集リーフレットなど

- ・WEB サイト運営として、ページ更新／コンテンツ改定、新規ページ制作（柔道整復師と理学療法士の違いページ、Wライセンス取得支援制度ページ、他府県出身者特集ページ、臨床の森ノ宮ページ、高校生専用ページなど）、新着情報の発信、動画制作などを行った。また、検索サイトで上位表示されるためのSEO対策を常時講じた。
- ・SNS（インスタグラム、Facebook、X、LINE）による情報の発信を実施した。
- ・リスティングやリターゲティング、SNSでのWEB広告を展開した。
- ・高校訪問、高校へのガイダンスを実施した。また、新規に部活動出張講義を開始した。
- ・進学媒体（進学情報誌、進学サイト）へ広告出稿を行った。

■事業成果データ

- ・資料請求者数 6,907件(昨年比 115.2%)
- ・イベント来校者数（のべ）：589名（昨年比 120.9%）
- ・イベント来校者数（実数）：402名（昨年比 126.4%）
- ・志願者数 141名（昨年比 94.6%）

【総務経理課】

- ・2024年度から入試制度がWEB出願になったが、大きなトラブルもなく業務を遂行できた。
- ・定期的に規程内容を確認して整合性がとれていない箇所のチェックを行った。
- ・ダブルスクールを専攻している学生が退学したことにより、減免額の返還が年度末に発生した。
- ・在校生は年度末で未納者はなく全額納付された。
- ・経費削減のため、緊急を要しない修繕などは2025年度以降で実施又は、しばらく実施しないなど選択し、消耗品は再利用可能な物は再利用するよう各部署に依頼実行した。

③鍼灸院・接骨院事業

【みどりの風鍼灸院】

- ・2024 年より、今までの鍼灸院でのマニュアルに加えて、新たに医療事故の防止を目指した取り組みを開始した。
- ・2024 年度より、1 年次の見学実習においてはタブレットを用いて実施している。資料およびレポートについてもタブレットを活用し、レポートを Teams から提出するシステムに変更した。それにより、今まで登校しないと提出できなかったレポートが自宅から提出できるようになり、提出状況もスムーズに確認できるようになった。
- ・2023 年度より実施している 1 年次のシミュレーション実習（血圧測定など）により、2 年次のみどりの風鍼灸院での実習内容の充実を図れるようになった。
- ・2023 年度より、教務の教員が週 1 回、みどりの風鍼灸院での臨床に入るようになったことにより、基本的に常時、鍼灸師 3 名体制がとれ、1 日の平均患者数も 15 名を越え、実習を実施することに問題がない状態となった。また、実習助手を常時 1 名置くことにより、教員は患者への施術により重点を置くことができるようになっていく。
- ・2021 年度より実施している、保険診療・往診診療も継続実施している。

【みどりの風接骨院】

「臨床実習について」

付属接骨院での臨床実習が3カ年を迎え、アンケートを行った。結果は以下の通りであった。概ね実習内容については良い結果となったが、患者に触れる機会をさらに設けるなど課題も明確になった。次年度以降は改善を行いたい。また、臨床実習が普段の座学や実技のモチベーションにもなっていたことが国家試験の合格率に寄与しているとも考えられる。

項目	「強く思う」・ 「そう思う」の回答率
学習目標が明確に設定されていた	92.3%
実習の内容はよく整理、計画されていた	89.7%
実習の学習量は適切だった	89.7%
実習は生徒全員が十分に参加できる構成になっていた	92.3%
接骨院の業務内容が理解できましたか	82.1%
柔道整復師としての職業意識は高まりましたか	92.3%
学校での授業の重要性が認識できましたか	92.3%
柔道整復師という職業への魅力・関心はより高まりましたか	92.3%
講師の講義や実演は効果的だった	92.3%
講師は生徒の興味・関心をかき立てた	89.7%
講師は授業時間を効果的に使った	89.7%
講師は質問に丁寧に対応してくれた	92.3%

「接骨院運営状況について」

延べ患者人数は以下の表の通りである。増加したことによって、実習で患者と接する機会を確保することができた。また、2025年度はクリニックやスポーツ団体との連携をとる予定であり、さらなる患者数の確保が見込まれる。

■延べ患者総数（）内外傷患者数

年月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
23年度	69 (25)	93 (17)	129 (35)	93 (14)	65 (7)	142 (32)	153 (20)	141 (17)	135 (7)	140 (15)	147 (15)	179 (15)	1,486 (219)
24年度	177 (28)	202 (27)	204 (34)	244 (41)	191 (17)	218 (16)	262 (40)	258 (46)	214 (11)	222 (24)	233 (35)	270 (50)	2,695 (369)
前年比	257%	217%	158%	262%	294%	154%	171%	183%	159%	159%	159%	151%	181%

(2) 事業成果の概要

① 在籍学生数

(単位：人)

2025 年 4月1日現在		1 年			2 年			3 年			合計		
		在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)
鍼灸学科	昼	66	0	0	70	0	0	49	0	1	185	0	1
	夜	21	0	1	20	1	1	12	0	1	53	1	3
柔道整復 学科	昼	30	0	0	24	0	0	26	0	1	80	0	1
	夜	15	0	0	13	0	0	11	0	0	39	0	0
合計		132	0	1	127	1	1	98	0	3	362	1	5

* 留年および休学は在籍者数の内数

(単位：人)

2024 年 4月1日現在		1 年			2 年			3 年			合計		
		在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)
鍼灸学科	昼	75	0	0	53	1	1	58	2	1	186	3	2
	夜	25	1	1	9	1	0	13	2	2	47	4	3
柔道整復 学科	昼	29	0	0	25	1	1	26	0	0	80	1	1
	夜	15	0	0	12	1	1	22	1	0	49	2	1
合計		144	1	1	99	4	3	119	5	3	362	10	7

* 留年および休学は在籍者数の内数

(単位：人)

2023 年 4月1日現在		1 年			2 年			3 年			合計		
		在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)
鍼灸学科	昼	58	2	0	64	3	3	65	0	1	187	5	4
	夜	12	0	0	13	1	1	15	2	2	40	3	3
柔道整復 学科	昼	33	1	0	33	0	0	37	1	0	103	2	0
	夜	11	0	0	23	2	1	15	0	0	49	2	1
合計		114	3	0	133	6	5	132	3	3	379	12	8

* 留年および休学は在籍者数の内数

② 年度別退学者数

(単位：人)

年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
退学者数	25	27	21	36	22
退学者比率	5.8%	6.1%	4.9%	9.5%	6.0%
在学生数	432	442	427	379	362

③ 志願者数

(単位：人)

入試実施年度		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
学科	コース	志願者	志願者	志願者	志願者	志願者数
鍼灸	午前コース	55	39	40	44	42
	昼間コース	42	38	31	39	30
	夜間コース	25	16	17	26	23
柔整	選択コース	14	24	19	20	18
	昼間コース	29	17	14	10	16
	夜間コース	22	29	14	16	15
合計		187	163	135	155	144

④ 国家試験合格率

■ 2024年度

はり師きゅう師国家試験（第 50 期）

国家試験成績		2024 年度（第 33 回）2025 年 2 月実施		
		受験者	合格者	合格率
本校現役受験者	はり師	61	54	88.5%
	きゅう師	61	55	90.1%
全現役受験者	はり師	3,169	2,831	89.3%
	きゅう師	3,168	2,846	89.8%
本校全受験者	はり師	103	60	58.2%
	きゅう師	105	64	60.9%
全受験者	はり師	4,150	3,066	73.8%
	きゅう師	4,094	3,068	74.9%

柔道整復師国家試験（第 23 期）

国家試験成績		2024 年度（第 33 回）2025 年 3 月実施		
		受験者	合格者	合格率
本校現役受験者	柔道整復師	38	33	86.8%
全現役受験者	柔道整復師	3,188	2,419	75.9%
本校全受験者	柔道整復師	77	38	49.4%
全受験者	柔道整復師	4,513	2,607	57.8%

■ 2023年度

はり師きゅう師国家試験（第 49 期）

国家試験成績		2023 年度（第 32 回）2024 年 2 月実施		
		受験者	合格者	合格率
本校現役受験者	はり師	67	61	91.0%
	きゅう師	67	59	88.1%
全現役受験者	はり師	3,213	2,756	85.8%
	きゅう師	3,213	2,770	86.2%
本校全受験者	はり師	105	63	60.0%
	きゅう師	101	59	58.4%
全受験者	はり師	4,176	2,892	69.3%
	きゅう師	4,111	2,887	70.2%

柔道整復師国家試験（第 22 期）

国家試験成績		2023 年度（第 32 回）2024 年 3 月実施		
		受験者	合格者	合格率
本校現役受験者	柔道整復師	40	34	85.0%
全現役受験者	柔道整復師	3,183	2,675	84.0%
本校全受験者	柔道整復師	91	46	50.5%
全受験者	柔道整復師	5,027	3,337	66.4%

⑤ 求人状況（2025年2月時点）

	鍼灸学科	柔道整復学科
有効求人登録件数	2,187	2,457

3. 関連事業部門

(1) 森ノ宮医療学園出版部

① 学生、卒業生への知識や情報の開示と還元

「主力雑誌の継続的発刊」

Tehamo10号・11号の2号を発刊。単冊赤字の解消として、2024年度よりTehamoの発刊数を年3冊から2冊へ変更し、継続的かつ予定通りの発刊を行った。『あととはとき』と『鍼灸OSAKA』を合本し大幅リニューアルし4年目に至るが、主制作担当者が外部委託となっているものの、広告収入を含めると2024年度のTehamoについては黒字（85,821円）となっている。

テーマ：頭痛とめまいへの東洋医学的アプローチ/あはきの研究・時代とトレンド（10号

2024.8.30発行）

フレイル①ーガットフレイルと便秘ー/あはきと「伝統」（11号2025.2.28発行）

視覚支援学校への定期講読案内を実施し、現在24校となっている。また、販売後比較的早期に在庫を終了し、その後購入の問い合わせが続いた雑誌6種を増刷し再版した。通常年1～2冊の売上のところ、増刷は10月頃実施したにも関わらず、55号6冊、99号12冊、123号8冊、Tehamo3号12冊、4号2冊、6号4冊の売上となっている。

「臨床シリーズ 産科領域」（鍼灸OSAKA55号）、「臨床シリーズ 57 不妊症・不育症」（鍼灸OSAKA99号）、「産前産後の鍼灸治療」（鍼灸OSAKA123号）、「睡眠障害を治療する/あはきと視覚障がい」（Tehamo3号）、「帯状疱疹・帯状疱疹後神経痛の治療とQOL/あはき業界マップ」（Tehamo4号）、「訪問治療/往療と東洋医学/あはきの宣伝/広告と広報」（Tehamo6号）

「既刊本のブラッシュアップならびに報告」

在庫僅少による増刷1種『このツボが効く先人に学ぶ75名穴』を実施した。日本鍼灸師会主催の全国経絡経穴カルタ大会で使用するカルタ『経穴かるた』を制作し、279冊（セット187冊、取り札のみ92冊）を販売。補助教材としてツボ暗記カードに続く主力商品となっている。1種増刷したものの、既刊本としては総計で黒字（1,356,901円）となった。

「教科書等販売」

専門学校学生の教科書販売も実施しているが、1、2年生は電子教科書となり、仕入れと販売価格が同価のため利益がなく、学生への還元事業となっている。

② 学園広報への貢献

「出展・広告への参画」

出展において部内にて検討し「第73回(公社)全日本鍼灸学会学術大会（2024.5.24～26仙台国際センター）」、「第74回日本東洋医学会学術総会2024.5.31～6.2大阪国際会議場」「第32回日本刺絡学会学術大会（2024.9.29タワーホール船堀）」「第52回日本伝統鍼灸学会学術大会（2024.10.26～27広島市東区民文化センタータワーホール船堀）」へ出展参加した。

広告も日本鍼灸新報、現代鍼灸学、伝統鍼灸、メリディアン、鍼灸柔整新聞、漢方の臨床、中医臨床、経絡治療、日本小児はり学会会誌など学会誌や業界誌へ、販促の重要なツールとして引き続き参画した。

「代田賞」

医道の日本社より移管された「代田賞」の事務局を鍼灸情報センターと協力し運営した。6月末論文締切、9/25（代田文誌命日）授与（今回は選考の結果該当者なしとなったため、賞の授与はなし）、『Tehamo』11月号論文掲載・次回募集掲載を実施。また、広報誌の在庫が僅少になったため、増刷を実施した。

「他社出版物への制作補助」

日本刺絡学会より会誌『刺絡』の制作依頼があれば請負業務として出版部で制作。3号発行し、制作費も回収済み。全日本鍼灸学会認定講習用テキストの制作、形井秀一先生を中心とした制作物、医道の日本社「はじめての鍼灸」の制作も検討されている。

③ 収益事業としての継続

「販売管理の徹底」

正確なデータを収集するため、受発注者を絞り、入力や発送など基本的事項を見直す作業に注力していたが、作業は継続したまま、受発注をはじめとした作業のマニュアル化など、管理の段階を進めている。「収益拡大」を目標に、ハードル一つ一つを超えることを現段階では重視している。

帳票名：残高試算表(書籍別対比)
事業所名：出版部
集計期間：2024/04/01,2025/3/31

勘定科目	<既刊本>	<教科書>	<Tehamo>	<バックナンバー>	<校友会>	<手数料>	<送料収入>	<代田賞>	<受託事業(立替)>	<受託事業(学会誌)>	<共通経費>	<合計>
[売上高]												
売上高合計	4,102,586	10,905,431	3,908,345	693,056		2,953,496	77,504			888,820		23,529,238
[売上原価]												
商品売上原価計	1,119,220	11,045,404	-220,676	-389,927								11,554,021
[当期製品製造原価]												
売上原価	1,689,130	11,045,404	3,495,500	80,873						690,285		17,001,192
売上総損益金額	2,413,456	-139,973	412,845	612,183		2,953,496	77,504			198,535		6,528,046
[販売管理費]												
販売管理費計	321,648		327,024	173,004	8,810	6,240	470,698	8,350			3,425,950	4,996,298
営業損益金額	2,091,808	-139,973	85,821	439,179	-8,810	2,947,256	-393,194	-8,350		198,535	-3,425,950	1,531,748
[営業外収益]												
営業外収益合計											21,897	21,897
[営業外費用]												
営業外費用合計	734,907			88,891							261	824,059
経常損益金額	1,356,901	-139,973	85,821	350,288	-8,810	2,947,256	-393,194	-8,350		198,535	-3,404,314	729,586
[特別利益]												
特別利益合計												
[特別損失]												
特別損失合計												
当期損益	1,356,901	-139,973	85,821	350,288	-8,810	2,947,256	-393,194	-8,350		198,535	-3,404,314	729,586

(2) 京都治療院

① 人員体制

常勤：柔道整復師 1 名、鍼灸師 1 名 計 2 名

受付：2 名（午前 1 名、午後 1 名）

② 治療院業務日数

・診療日数 235日（うち 柔整部門45日、鍼灸部門5日は休診）

※柔整部門の休診日には専門学校で兼任講師を週1回（36日）含む。

診療日時 9:00～12:30（受付終了：12:00）／16:00～20:00（受付終了 19:30）

月～金（休診：土・日・祝日・他）

・休診日数 131日

③ 広報・院外活動

「継続活動」

・トレーナー活動

（（京都大学：男子・女子ラグロス部、京都精華高校：男子・女子サッカー部）

・運動部マネージャー等対象とした勉強会（ケガ予防やテーピング方法等）を毎月開催。

・治療院前でのブラックボード設置やホームページ、LINE@、Instagram、Facebookによる情報発信。自費メニューキャンペーン等の実施。

・近隣大学運動部（京都大学・京都産業大学）ほか、京都市内の学校へのアプローチ。

・御所東クリニックとの医療連携。

・環境省参画の「熱中症予防声かけプロジェクト」の活動として、治療院前に「暑さ指数」を掲示し、通行人等へ熱中症の注意喚起を行った。

・自費メニューとして、慢性施術・美容鍼・アロマオイルトリートメント・パーソナルトレーニング・酸素カプセル・医療機器レンタル・物販の実施。

・発達障害支援サイト「凸凹じぶんび」に鍼灸に関するコラムを掲載。

・臨床実習施設として、森ノ宮医療学園専門学校 柔整トレーナーコースの実習を計50回（前期：2年 10回、中期：1年・2年 10回、後期：1年・2年 10回）実施し、施術者管理のもと、学生による問診、施術の実習を行った。また、森ノ宮医療大学 鍼灸学科 2年生2名（1日）を受け入れ、鍼灸・アロマ・接骨などの施術見学、トレーニング見学のほか、鍼灸施術受療体験、物療機器の説明・体験をする実習を行った。実習生2名ともスポーツトレーナー活動にも興味があったため、中村院長の精華高校女子サッカー部トレーナー活動にも帯同し見学する実習も行った。

・近隣施設の吉田児童館にて、子育て世代の父母を対象に、鍼灸師による肩こり・腰痛のセルフケアに関するセミナーを実施。セミナー時に院のチラシも配布し、セミナー参加者の来院に繋がった。

・既存患者に対して、各種自費メニューの追加や、体の施術のみの鍼灸メニューから単価の高い美容鍼メニュー（体＋顔の鍼灸）への移行を促し、患者1人あたりの単価向上に繋がった。

・インディバ社主催のセミナーに参加し、知識と技術の向上に努めた。

「新規活動」

- ・精華高校女子サッカー部の夏合宿に、専門学校の学生を2日間で計11人帯同、トレーナー活動の現場を体験することができた
- ・精華高校女子サッカー部・京都大学女子ラクロス部・京都大学男子ラクロスの試合や練習にも学生を帯同させ、トレーナー活動の現場を体験できた。
- ・化粧品会社ドクターピュアラボと提携し、商品を導入。在庫を保持しない形式での販売方法を交渉し、オンライン販売を導入。
- ・ドクターピュアラボの商品を美容鍼のオプションメニューとして導入し、施術の満足度向上・患者のマンネリ化を防ぐための施術バリエーションの拡大に繋がった。また、単価の高い商品についても、初回キャンペーン・複数購入特典等の工夫をし、販売を促進した。
- ・ドクターピュアラボ主催の美容セミナーに参加し、美容に関する最新情報・専門的な知識を取得、患者への施術時の説明・アドバイスに反映させ、患者満足度・単価の向上に繋がった。
- ・ドクターピュアラボの美容スタッフを講師に招き、中村院長の集客により京都大学女子ラクロス部部員を対象に、美容セミナーを開催した。セミナー参加者対象に、美容鍼広報・割引キャンペーンも行った。

④ 運営状況等

2024年度の運営状況は下表のとおり、鍼灸部門は患者単価が向上し、前年度より増収となった。柔整部門の患者数は若干減少したものの売上は増収、治療院全体では、前年度の患者数は107%、売上は120%増加した。

【2023年度と2024年度の患者数と施術売上比較】

■稼働日数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
23年度	鍼灸稼働日	20	20	22	18.5	19	19	21	16	19.5	16	18	20	229
	接骨稼働日	16	17	16	18	16	16	16	11	15.5	14	12	20	187.5
24年度	鍼灸稼働日	21	21	20	22	17	18	21	16.5	16.5	18.5	17.5	18	227
	接骨稼働日	17	16	17	19	11	15	17	14	14.5	15	14	16	185.5

■延べ患者総数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
23年度	接骨	139	156	144	162	127	161	199	112	117	93	76	116	1,602
	鍼灸	61	59	47	71	47	46	58	60	59	50	65	59	682
	美容	21	34	24	20	13	22	24	15	31	16	24	21	265
	その他	24	17	13	13	23	30	40	20	18	16	22	14	250
	計	245	266	228	266	210	259	321	207	225	175	187	210	2,799
24年度	接骨	147	159	131	137	88	174	191	146	99	90	89	107	1,558
	鍼灸	81	65	72	70	59	56	64	60	61	62	59	62	771
	美容	27	42	37	41	21	41	36	28	27	35	31	33	399
	その他	18	30	30	30	35	25	28	9	13	13	10	16	257
	計	273	296	270	278	203	296	319	243	200	200	189	218	2,985
計前年比		111%	111%	118%	105%	97%	114%	99%	117%	89%	114%	101%	104%	107%

■売上（円）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
23 年 度	接骨	193,950	305,395	286,524	362,908	255,321	234,693	317,186	192,343	210,946	152,649	109,089	170,915	2,791,919
	鍼灸	168,656	163,590	129,650	228,455	135,976	123,573	178,541	185,198	178,386	164,456	208,586	164,726	2,029,793
	美容	80,000	111,000	81,000	76,000	52,000	74,500	92,500	54,500	103,500	65,500	80,300	61,400	932,200
	その他	60,150	40,150	32,500	13,450	35,050	49,050	137,650	37,200	35,450	37,000	43,350	18,750	539,750
	計	502,756	620,135	529,674	680,813	478,347	481,816	725,877	469,241	528,282	419,605	441,325	415,791	6,293,662
24 年 度	接骨	246,289	298,762	230,544	359,735	281,594	418,897	390,325	231,678	145,719	136,389	143,451	185,617	3,069,000
	鍼灸	263,832	203,642	235,732	253,140	209,572	180,566	222,876	202,710	218,606	202,150	181,290	185,146	2,559,262
	美容	85,100	126,600	120,600	132,900	76,100	136,200	132,100	93,700	82,200	110,500	103,200	121,120	1,320,320
	その他	15,900	55,900	86,248	83,500	74,500	39,950	70,100	34,100	27,150	64,150	19,000	45,250	615,748
	計	611,121	684,904	673,124	829,275	641,766	775,613	815,401	562,188	473,675	513,189	446,941	537,133	7,564,330
計前年比		122%	110%	127%	122%	134%	161%	112%	120%	90%	122%	101%	129%	120%

その他：O2・リーバス等機器貸出、慢性施術、物販等

■延べ患者年齢層

	0～14	15-18	19-24	25-29	30代	40代	50代	60代	70代	80超	計
接骨	127	415	703	59	48	91	84	9	16	6	1,558
鍼灸	0	3	49	9	39	168	143	121	24	215	771
美容	0	0	0	5	3	84	224	69	0	14	399

III. 財務の概要

授業料値上げ、言語聴覚学科の1学年増や補助金収入が増加もあり教育活動収入が4,845,958千円となった。支出もウェルランゲージスクールの支出もなくなったこと、経費削減に努めたこともあり、4,726,537千円となった。その結果、経常収支差額は81,963千円のプラスになった。また、施設寄付金等や資産処分差額などの特別収支を差引した結果、基本金組入前当年度収支差額は137,469千円のプラスとなった。

・2024年度事業活動収支計算書概要

(円)

項目	2024年度	2023年度	2022年度	2021年度
教育事業活動収入	4,845,958,281	4,818,759,163	4,851,057,908	4,580,542,860
教育事業活動支出	4,726,537,425	4,849,322,042	4,516,174,065	4,109,095,560
教育活動収支差額	119,420,856	△30,562,879	334,883,843	471,447,300
教育活動外収入	1,719,551	32,528	26,274	28,338
教育活動外支出	39,176,683	28,445,703	16,666,274	15,086,306
経常収支差額	81,963,724	△58,976,054	318,243,843	456,389,332
特別収支差額（集計）	55,505,627	37,464,162	22,986,730	142,617,460
組入前当年度収支差額	137,469,351	△21,511,892	341,230,573	600,006,792
基本金組入額	△1,213,147,777	△831,195,972	△434,625,781	△1,362,294,879
当年度収支差額	△1,075,678,426	△852,707,864	△93,395,208	△762,288,087
前年度繰越収支差額	△4,395,193,522	△3,545,281,258	△3,485,389,361	△3,187,096,753
翌年度繰越収支差額	△4,830,073,617	△4,395,193,522	△3,545,281,258	△3,485,389,361

・正味資産の推移

(円)

	2024年度	2023年度	2022年度	2021年度
正味資産	13,827,322,791 (内現金預金総額 2,918,888,316)	13,689,853,440 (内現金預金総額 2,891,894,962)	13,711,365,332 (内現金預金総額 2,924,578,035)	13,370,134,759 (内現金預金総額 2,828,068,749)
資産増加額	137,469,351	△21,511,892	341,230,573	600,006,792

・主な財務比率

項目	2024年度	2023年度	2022年度	2021年度
経常収支差額比率	1.7%	△1.2%	6.5%	9.9%
人件費比率	49.5%	49.2%	47.2%	48.3%
教育研究経費比率	35.5%	34.7%	31.6%	29.6%
管理経費比率	12.4%	16.5%	13.3%	11.7%